

柏崎刈羽原子力発電所第6号機	設計及び工事計画審査資料
資料番号	KK6 添-2-074-6 改0
提出年月日	2023年12月1日

VI-2-2-別添 1-2-6 サブドレンシャフトの耐震性についての計算書

K6 ① VI-2-2-別添 1-2-6 R0

2023年12月
東京電力ホールディングス株式会社

目次

1. 概要	1
2. 基本方針	2
2.1 位置	2
2.2 構造概要	3
2.3 評価方針	7
2.4 適用規格・基準等	9
3. 応力解析による評価方法	10
3.1 評価対象部位及び評価方針	10
3.2 荷重及び荷重の組合せ	12
3.2.1 荷重	12
3.2.2 荷重の組合せ	12
3.3 許容限界	13
3.4 評価方法	14
3.4.1 応力解析方法	14
3.4.2 地震動の選定	20
3.4.3 地盤物性の不確かさを考慮した検討に用いる地震動	29
3.5 応力解析による最大応答値のまとめ	49
3.5.1 管軸方向断面の最大応答値	49
3.5.2 横断方向断面の最大応答値	49
4. 評価結果	50
4.1 管軸方向断面の評価結果	50
4.2 横断方向断面の評価結果	52
参考資料 1. 本計算書以外のサブドレンシャフトの耐震性について	54
参考資料 2. タービン建屋側地盤層序の影響評価について	55

1. 概要

建屋評価における前提条件を満たすために、6号機地下水排水設備は、建屋の耐震性を確保するため地下水位を建屋基礎スラブ底面レベル以深に維持する機能を有する。

6号機地下水排水設備の評価においては、VI-2-1-1「耐震設計の基本方針」のうち、「10. 耐震計算の基本方針 10.1 建物・構築物」及びVI-1-1-9「発電用原子炉施設の溢水防護に関する説明書」に基づき、基準地震動 S_s による地震力に対して機能を維持できることを確認する。

本計算書は、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」にて設定している構造強度及び機能維持の設計方針に基づき、6号機地下水排水設備のうちサブドレンシャフトが設計用地震力に対して十分な構造強度を有していることを説明するものである。

2. 基本方針

原子炉建屋，タービン建屋，コントロール建屋，廃棄物処理建屋の地下水排水設備（以下，「地下水排水設備」という。）は，各建屋に対し，その耐震性を確保するため地下水位を建屋基礎スラブ底面レベル以深に維持する機能を有し，基準地震動 S_s に対する機能維持を確認する必要があることから，地下水排水設備を構成するサブドレンシャフトについて基準地震動 S_s による地震力に対する評価を実施する。

2.1 位置

地下水排水設備の概略配置を図 2-1 に示す。

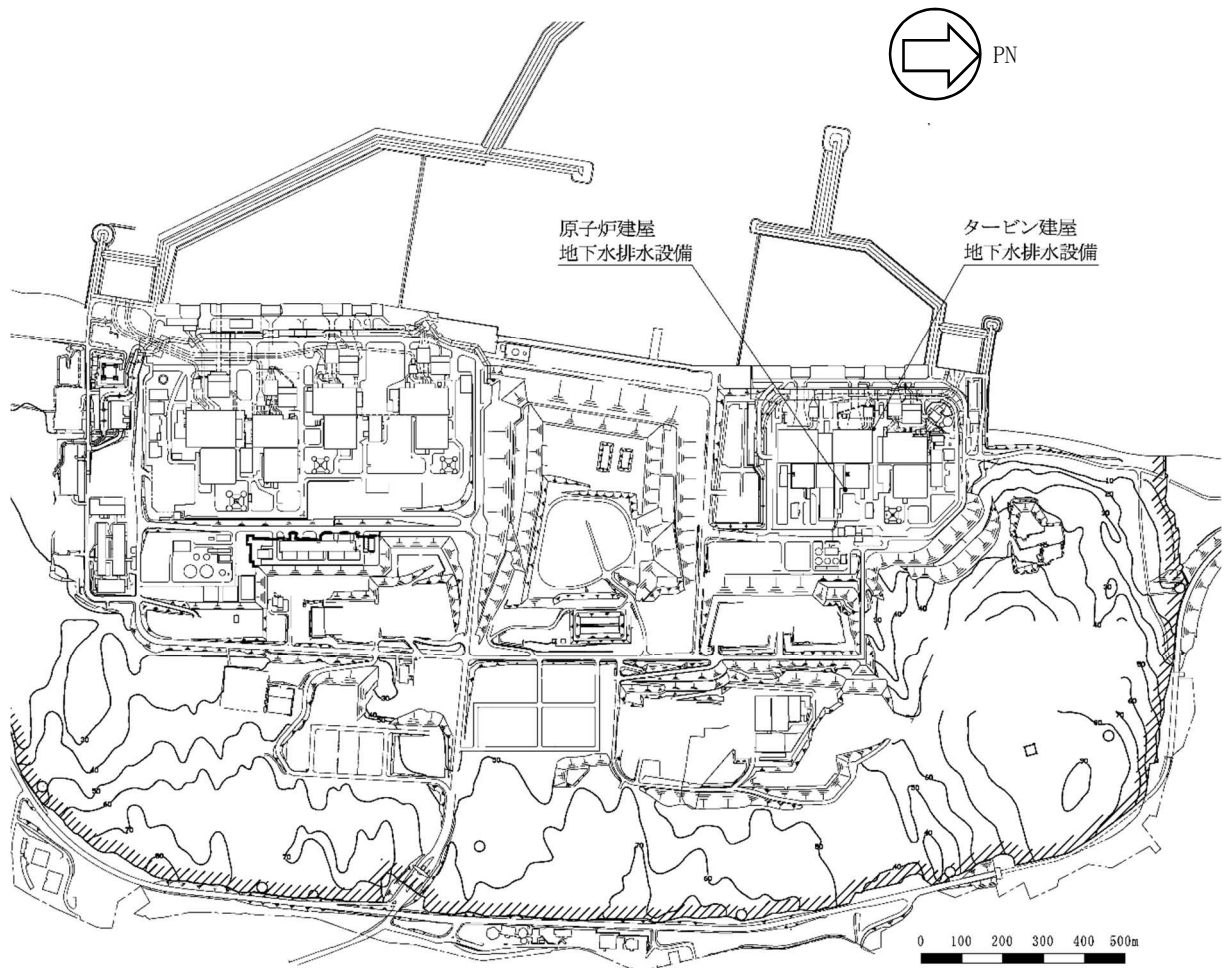


図 2-1 地下水排水設備の概略配置図

2.2 構造概要

原子炉建屋のサブドレンシャフトは、北側に2箇所、南側に2箇所設置し、原子炉建屋の四方隅角部付近に位置する。評価対象とするサブドレンシャフトは、内径 $\phi 1.7\text{m}$ の鋼管である。

タービン建屋のサブドレンシャフトは、北側に2箇所、南側に1箇所設置し、タービン建屋の四方隅角部付近に位置する。評価対象とするサブドレンシャフトは、内径 $\phi 1.7\text{m}$ の鋼管である。

地下水排水設備の評価対象配置図及び概略構成図を図2-2～図2-3に、原子炉建屋サブドレンシャフトの概略断面図を図2-4に、タービン建屋サブドレンシャフトの概略断面図を図2-5に示す。

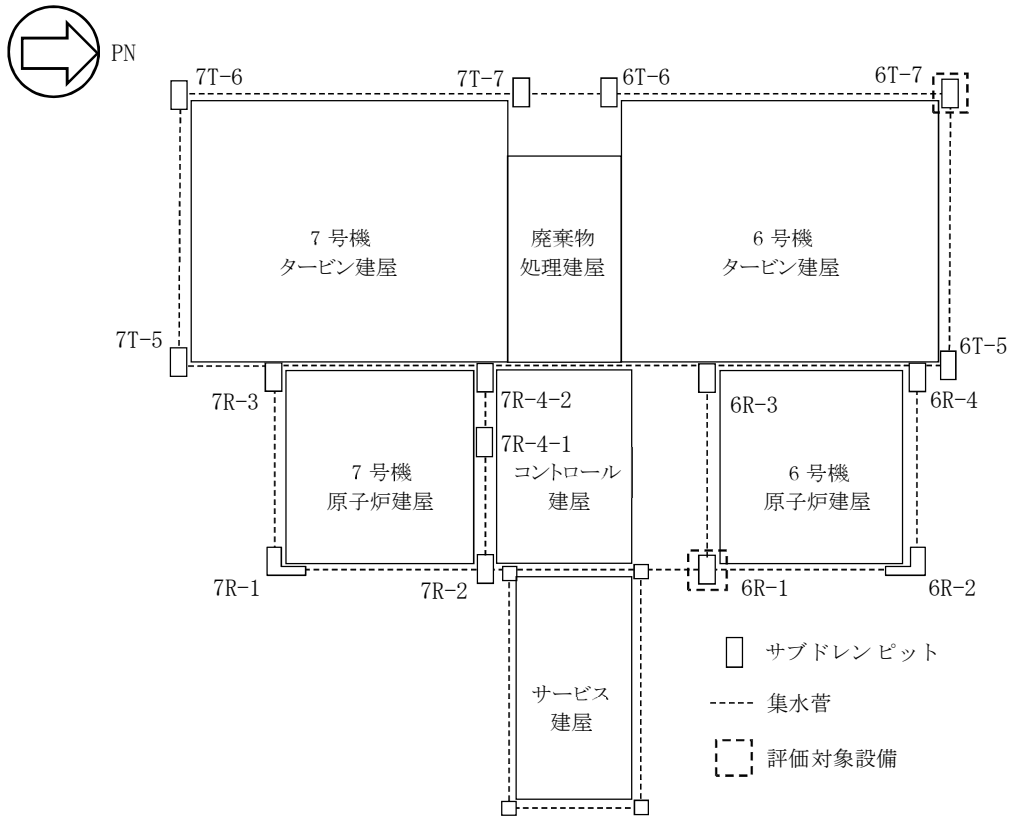


図 2-2 地下水排水設備の評価対象配置図

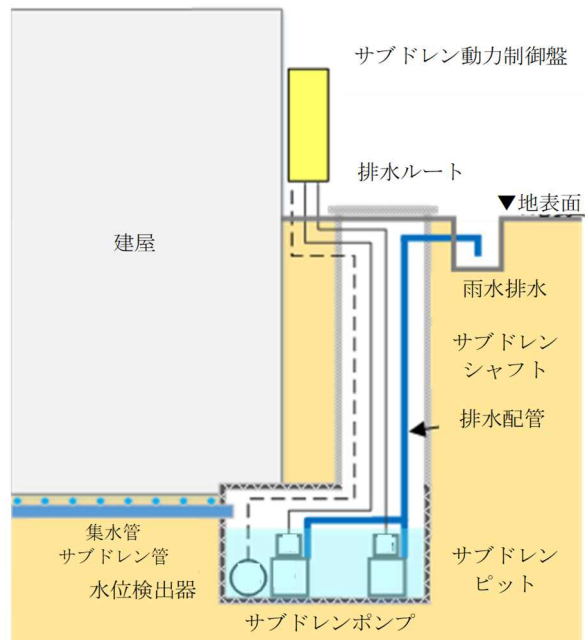


図 2-3 地下水排水設備の概略構成図

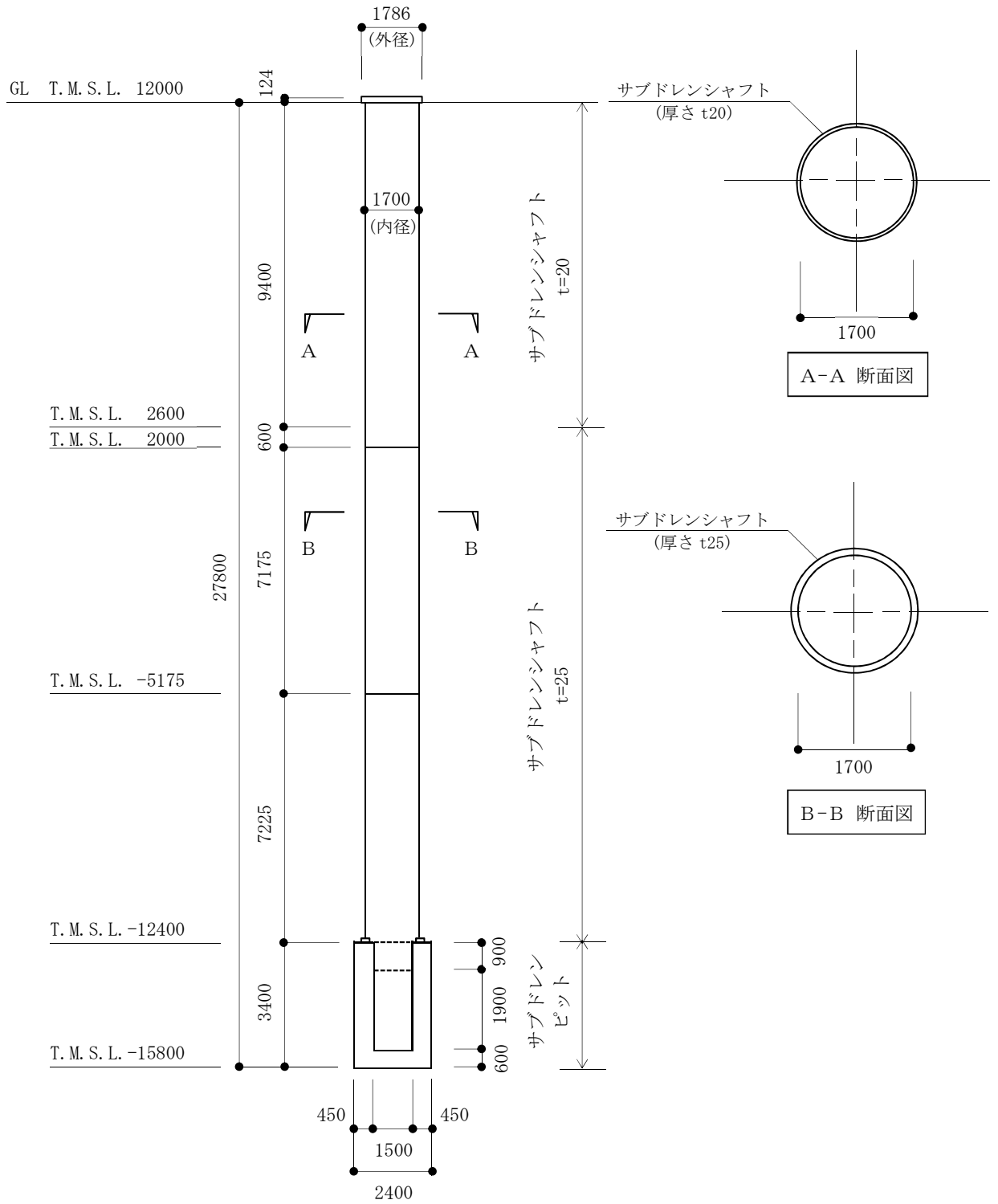


図 2-4 原子炉建屋サブドレンシャフトの概略断面図 (単位 : mm)

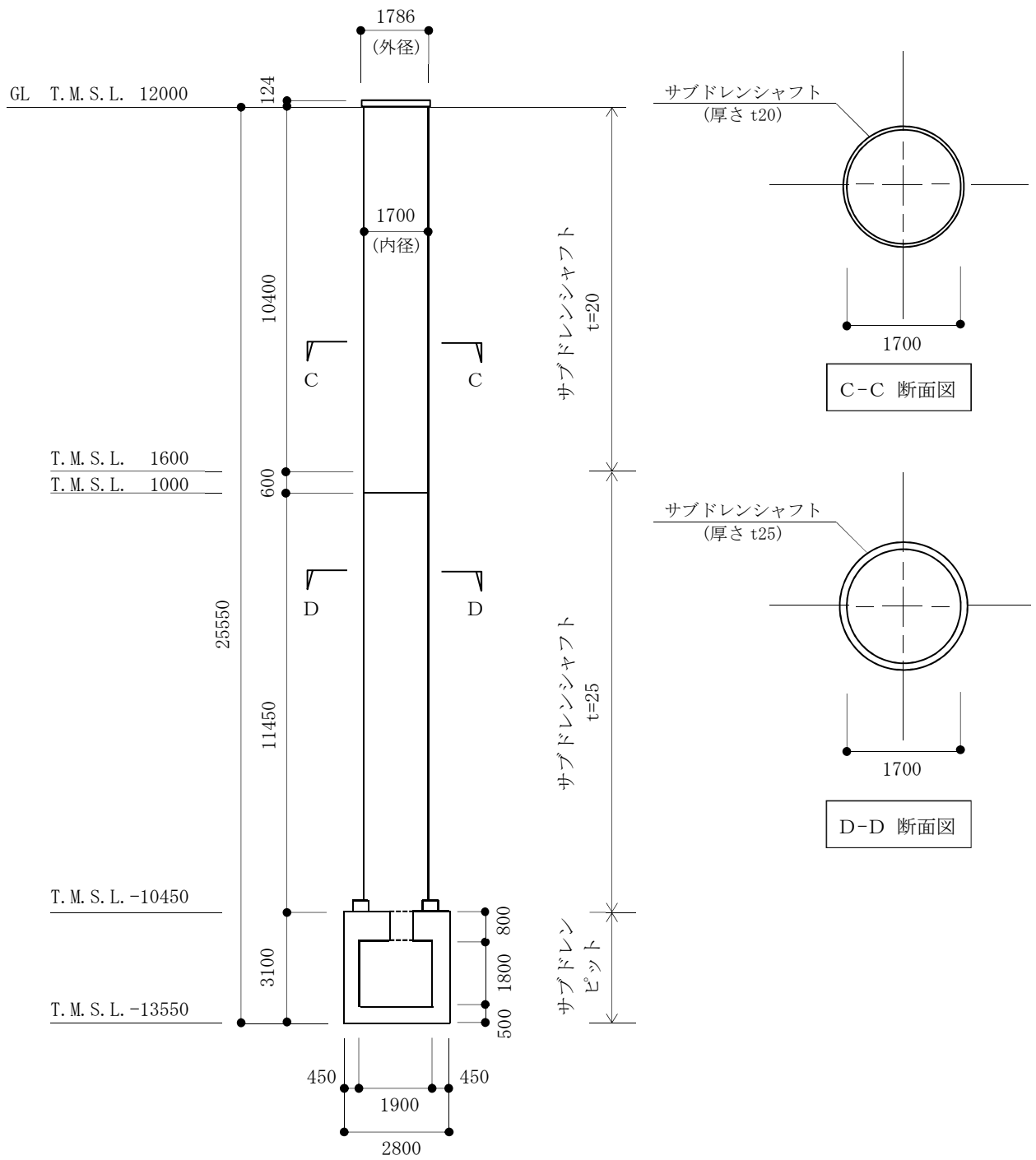
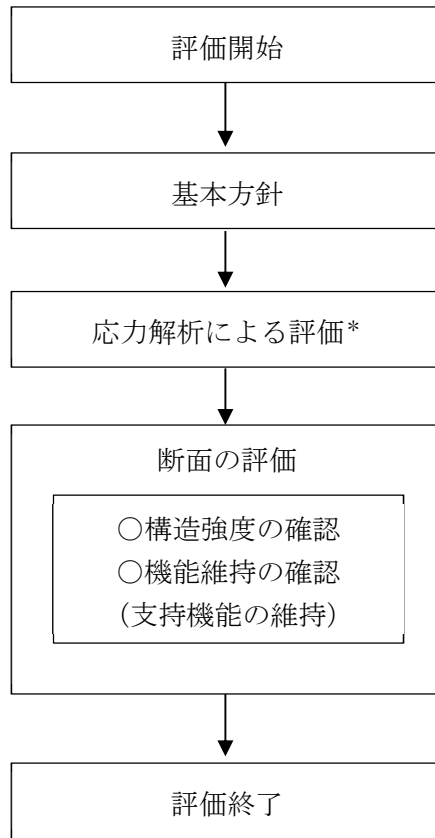


図 2-5 タービン建屋サブドレンシャフトの概略断面図 (単位 : mm)

2.3 評価方針

サブドレンシャフトの評価は、VI-2-1-1「耐震設計の基本方針」に基づき、応力解析による断面の評価を行うことで、地震時の構造強度及び機能維持の確認を行う。評価は、VI-2-2-別添 1-2-1「地下水排水設備設置位置の地盤応答」の結果を踏まえたものとする。評価に当たっては地盤物性の不確かさを考慮する。

サブドレンシャフトの評価フローを図 2-6 に示す。



注記* : 地盤物性の不確かさを考慮する。

図 2-6 サブドレンシャフトの評価フロー

2.4 適用規格・基準等

サブドレンシャフトの評価において、適用する規格・基準等を以下に示す。

- ・原子力発電所耐震設計技術指針 J E A G 4 6 0 1-1987 ((社) 日本電気協会)
- ・原子力発電所耐震設計技術指針 重要度分類・許容応力編 J E A G 4 6 0 1
・補-1984 ((社) 日本電気協会)
- ・原子力発電所耐震設計技術指針 J E A G 4 6 0 1-1991 追補版 ((社) 日本電気協会)
- ・鋼構造設計規準 ー許容応力度設計法ー ((社) 日本建築学会, 2005改定)
(以下「S規準」という。)
- ・道路橋示方書 (I共通編・IV下部構造編)・同解説 ((社) 日本道路協会, 2002)
- ・2015 年版建築物の構造関係技術基準解説書 (国土交通省国土技術政策総合研究所・国立研究開発法人建築研究所) (以下「技術基準解説書」という。)

3. 応力解析による評価方法

3.1 評価対象部位及び評価方針

応力解析による評価対象部位はサブドレンシャフトとする。管軸方向（鉛直断面）の検討では線形はり-地盤ばねモデルによる応答変位法解析を実施し、横断方向（水平断面）の検討では線形はりモデルによる静的解析を行う。

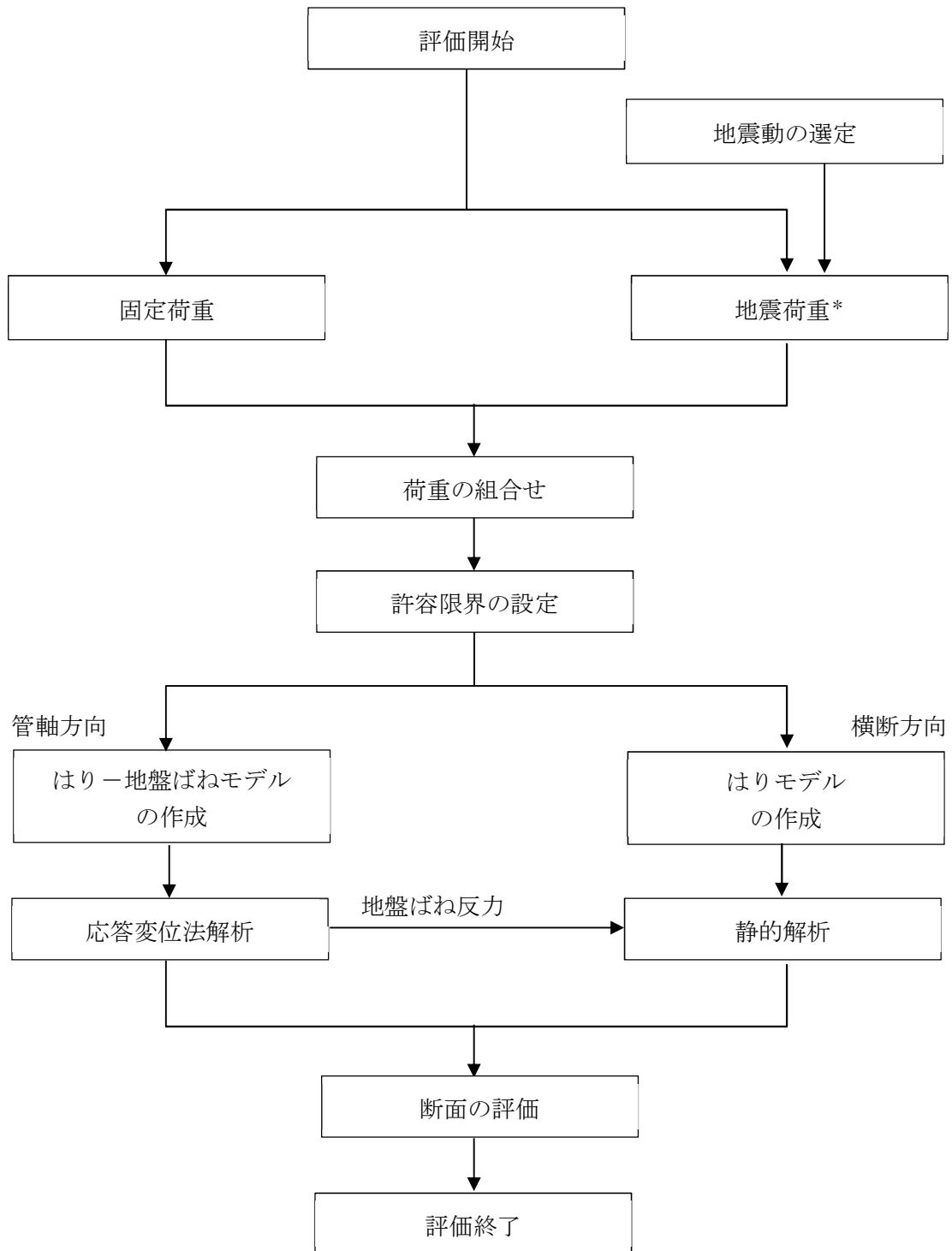
応力解析にあたっては、地盤応答解析による結果を用いて地震荷重を設定する。

地震荷重と地震荷重以外の荷重の組合せの結果、発生する応力が「S規準」に基づき設定した許容限界を超えないことを確認する。許容応力度の評価は、「S規準」に基づいて曲げ及び圧縮応力度の組合せ並びにせん断応力度について評価を行う。

応力解析によるサブドレンシャフトの評価フローを図3-1に示す。

地震動の選定については、VI-2-2-1「原子炉建屋の地震応答計算書」及び「原子炉建屋の地震応答計算書に関する補足説明資料」に基づき、地盤物性の不確かさを考慮するものとし、建屋及び基準地震動 S_s ごとの基本ケースにおける応答結果を確認したうえで、応答結果の大きい波に対して検討を実施する。

サブドレンシャフトは、鋼材の腐食対策として、外面にFRPライニング塗料、内面にタールエポキシ樹脂系塗料を施すものとし、設計において腐食代は考慮しないものとする。



注記* : 地盤剛性の $\pm\sigma$ を考慮した地震荷重とする。

図 3-1 応力解析によるサブドレンシャフトの評価フロー

3.2 荷重及び荷重の組合せ

荷重及び荷重の組合せは、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」にて設定している荷重及び荷重の組合せを用いる。

3.2.1 荷重

(1) 固定荷重 (G)

固定荷重として、サブドレンシャフトの管体の自重を考慮する。

(2) 地震荷重 (S_s)

地震力は、基準地震動 S_s に対する地盤応答より算定される動的地震力に地盤物性の不確かさを考慮して設定する。

管軸方向の地震荷重は、基準地震動 S_s に対する地盤の時刻歴応答変位を地震力として設定する。また、鉛直荷重は、地表面での鉛直方向最大応答加速度より算定される鉛直震度とする。

横断方向の地震荷重は、サブドレンシャフトの周辺の地盤に発生する最大水平変位による地盤ばね反力より算定される地震時増分土圧と地震時静止土圧を加算して算定される地震時土圧を考慮する。

なお、管軸方向と横断方向の地震荷重の組合せは、各断面方向の地震荷重による断面内の最大応力発生位置が異なるため、地震荷重の組合せは行わない。各断面方向の地震荷重によるサブドレンシャフト断面内の最大応力発生位置を図 3-2 に示す。

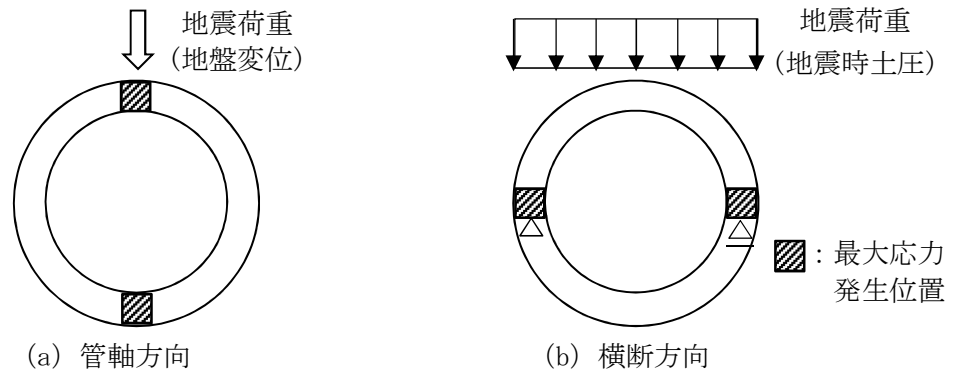


図 3-2 サブドレンシャフト断面内の最大応力発生位置

3.2.2 荷重の組合せ

荷重の組合せを表 3-1 に示す。

表 3-1 荷重の組合せ

荷重状態	荷重の組合せ
S _s 地震時	G + S _s

G : 固定荷重

S_s : 基準地震動 S_s による地震荷重

3.3 許容限界

応力解析による評価におけるサブドレンシャフトの許容限界は、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」に記載の構造強度上の制限及び機能維持の基本方針に基づき、表 3-2 のとおり設定する。また、鋼管の弾性限強度を表 3-3 に示す。

表 3-2 応力解析による評価における許容限界

要求機能	機能設計上の性能目標	地震力	部位	機能維持のための考え方	許容限界
—	構造強度を有すること	基準地震動 S _s	サブドレンシャフト	部材に生じる応力が構造強度を確保するための許容限界を超えないことを確認	「S規準」に基づく弾性限強度
支持機能	機器・配管系等の設備を支持する機能を損なわないこと	基準地震動 S _s	サブドレンシャフト	部材に生じる応力が支持機能を維持するための許容限界を超えないことを確認	「S規準」に基づく弾性限強度

表 3-3 鋼管の弾性限強度

(単位：N/mm²)

材 料	板 厚	F 値	弾性限強度*2		
			圧縮 引張	曲げ	せん断
SS400[SS41]*1	t ≤ 40mm	235	258	258 (297)*3	148

注記*1 : []内は従来標記を示す。

*2 : 「技術基準解説書」を参考にF値に1.1倍の割増しを考慮する。ただし、圧縮の弾性限強度に対しては上限値であり、座屈長さを勘案して設定する。

*3 : () の数値は、面外に曲げを受ける場合の弾性限強度を示す。

3.4 評価方法

3.4.1 応力解析方法

サブドレンシャフトの応力解析においては、管軸方向断面（鉛直断面）と横断方向断面（水平断面）について評価を行う。

(1) 管軸方向断面の応力解析

サブドレンシャフトの管軸方向断面（鉛直断面）の応力解析は、上述の地盤の応答解析で得られる地盤変位を用いた応答変位法を用いる。サブドレンシャフトは線形はり要素としてモデル化し、地盤は「道路橋示方書（I 共通編・IV下部構造編）」に基づき、地盤ばねでモデル化する。応答変位法では、水平方向の地盤ばねを介して地盤の応答変位を時々刻々作用させ、地震時応力を算出する。

管軸方向断面の応力解析モデルを図 3-3～図 3-4 に示す。サブドレンシャフトは、曲げ及びせん断剛性を考慮した線形はり要素とする。サブドレンシャフトを構成する鋼管の断面性能を表 3-4～表 3-5 に示し、サブドレンピットの断面性能を表 3-6～表 3-7 に示す。また、サブドレンシャフト及びピットの物性値を表 3-8 に示す。

解析には解析コード「NUPP4」を用いる。

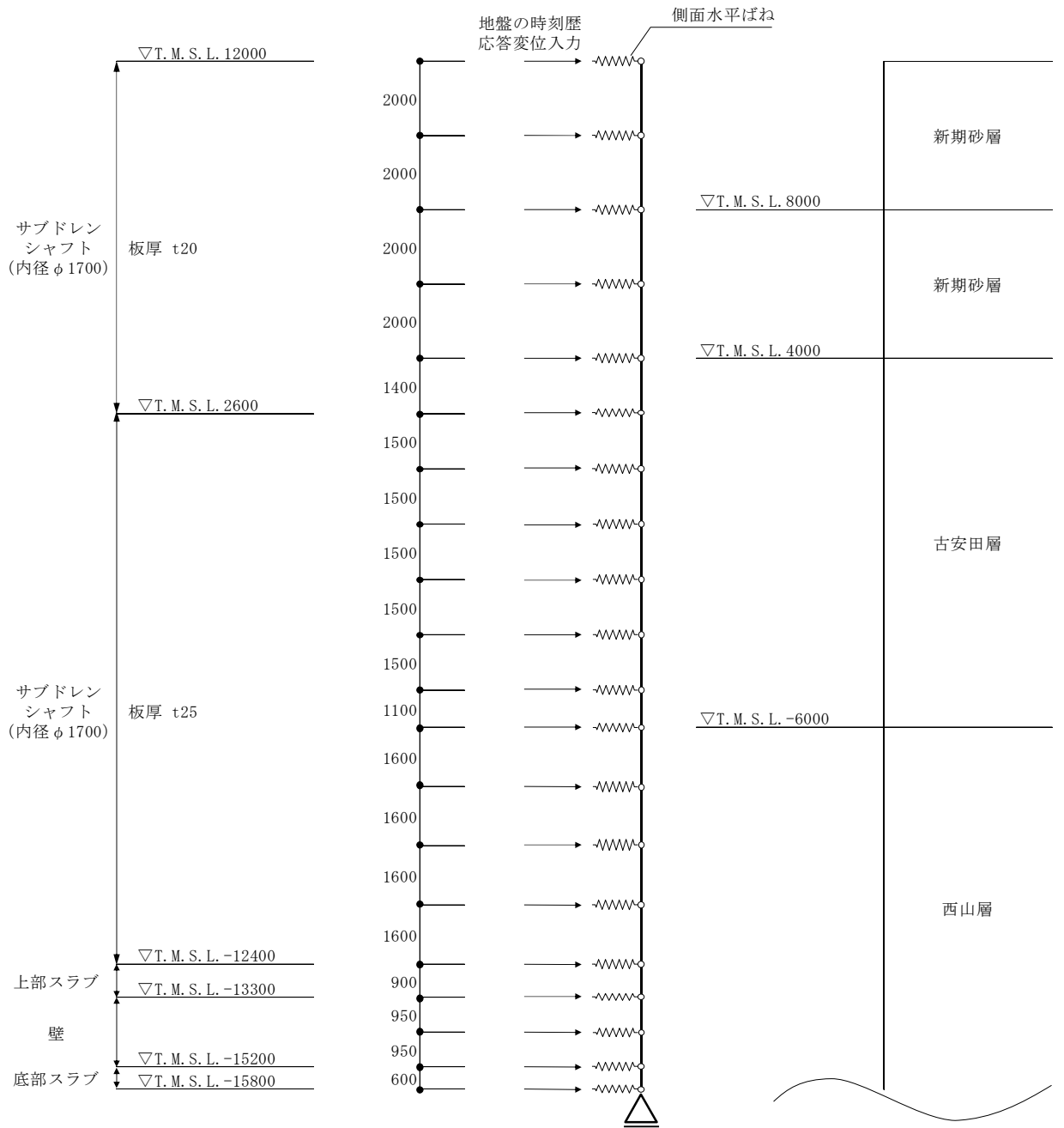


図 3-3 管軸方向断面の応力解析モデル (原子炉建屋) (単位 : mm)

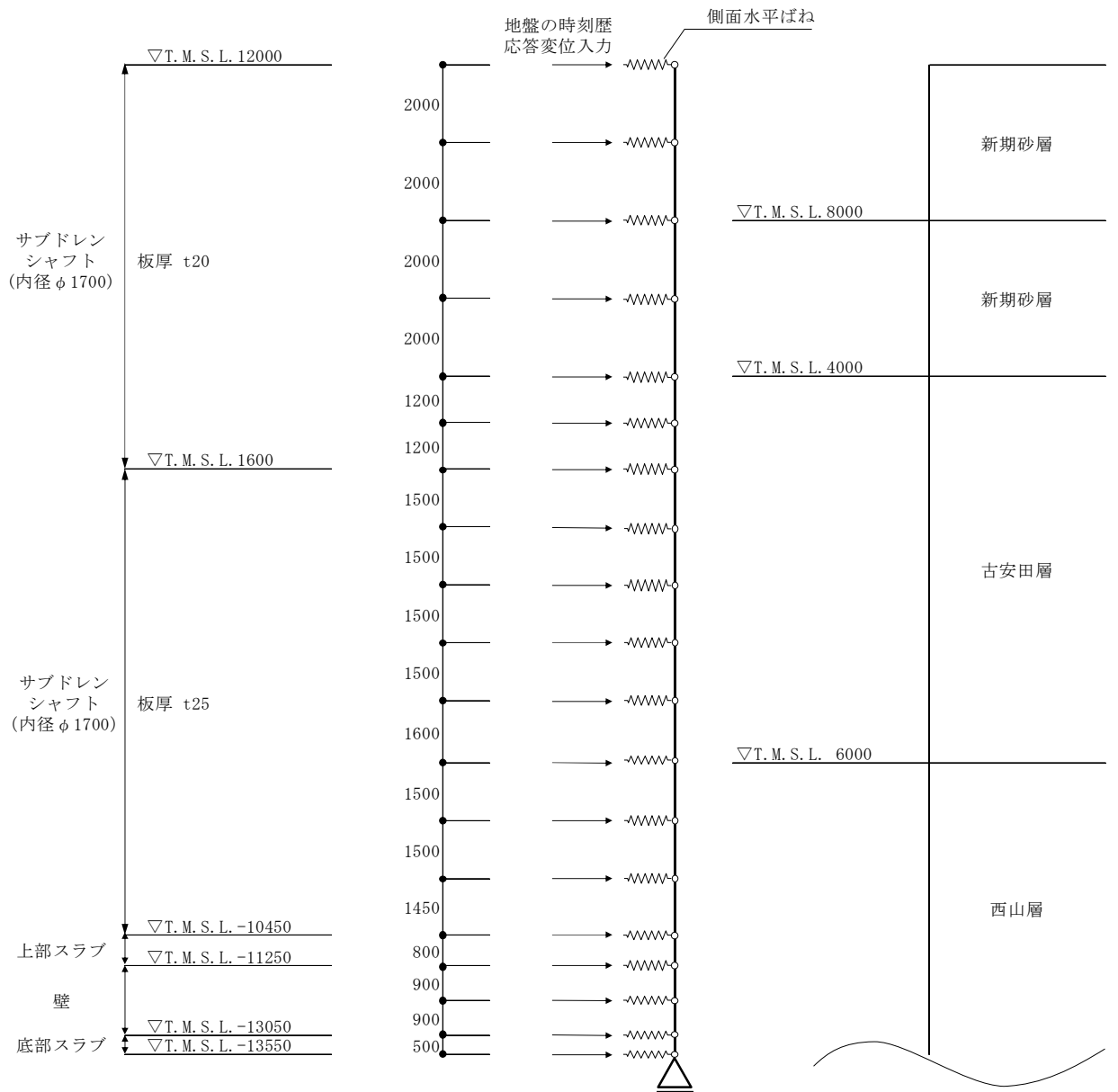


図 3-4 管軸方向断面の応力解析モデル (タービン建屋) (単位: mm)

表 3-4 原子炉建屋サブドレンシャフトの断面性能

標高 T. M. S. L. (m)	呼び径 (mm)	内径 (mm)	厚さ (mm)	断面 2 次 モーメント (m ⁴)	せん断面積 (m ²)
12.0 ~ 2.60	1700	1700	20	0.0400	0.0540
2.60 ~ -12.4	1700	1700	25	0.0504	0.0675

表 3-5 タービン建屋サブドレンシャフトの断面性能

標高 T. M. S. L. (m)	呼び径 (mm)	内径 (mm)	厚さ (mm)	断面 2 次 モーメント (m ⁴)	せん断面積 (m ²)
12.0 ~ 1.60	1700	1700	20	0.0400	0.0540
1.60 ~ -10.45	1700	1700	25	0.0504	0.0675

表 3-6 原子炉建屋サブドレンピットの断面性能

部位	標高 T. M. S. L. (m)	断面 2 次 モーメント* (m ⁴)		せん断 断面面積* (m ²)	
		NS	EW	NS	EW
上部スラブ	-12.40 ~ -13.30	4.96	20.1	2.16	4.86
壁	-13.30 ~ -15.20	4.96	20.1	2.16	4.86
底部スラブ	-15.20 ~ -15.80	6.22	31.5	10.8	10.8

注記* : VI-2-2-別添1-2-7「サブドレンピットの耐震性についての計算書」の「2.2 構造概要」の躯体形状に基づき算出。

表 3-7 タービン建屋サブドレンピットの断面性能

部位	標高 T. M. S. L. (m)	断面 2 次 モーメント* (m ⁴)		せん断 断面面積* (m ²)	
		NS	EW	NS	EW
上部スラブ	-10.45 ~ -11.25	5.12	5.12	6.53	6.53
壁	-11.25 ~ -13.05	4.04	4.04	2.52	2.52
底部スラブ	-13.05 ~ -13.55	5.12	5.12	6.53	6.53

注記* : VI-2-2-別添1-2-7「サブドレンピットの耐震性についての計算書」の「2.2 構造概要」の躯体形状に基づき算出。

表 3-8 サブドレンシャフト及びピットの物性値

部位	材料	ヤング係数 (N/mm ²)	ポアソン比
サブドレン シャフト	鋼管 : SS400[SS41]*	2.05×10^5	0.3
サブドレン ピット	コンクリート : $F_c = 32.3$ (N/mm ²) [$F_c = 330$ kgf/cm ²]*	2.50×10^4	0.2

注記* : []内は従来標記を示す。

(2) 横断方向断面の応力解析

サブドレンシャフトの横断方向断面（水平断面）の応力解析は、管軸方向断面の応力解析において、はり要素の節点位置に取付けた地盤ばね要素の反力を、地盤ばね要素の支配面積で除した地震時増分土圧に、地震時静止土圧を加算して算定される地震時土圧を設定した静的解析とする。構造部材は円形状にモデル化した線形はり要素とし、「道路橋示方書（I 共通編・IV 下部構造編）」のケーソン基礎の設計における地震時の荷重状態に倣って地震時土圧を静的に載荷して、地震時の最大曲げモーメントを算出する。

図 3-5 に解析モデルを示す。

解析には解析コード「KANSAS 2」を用いる。

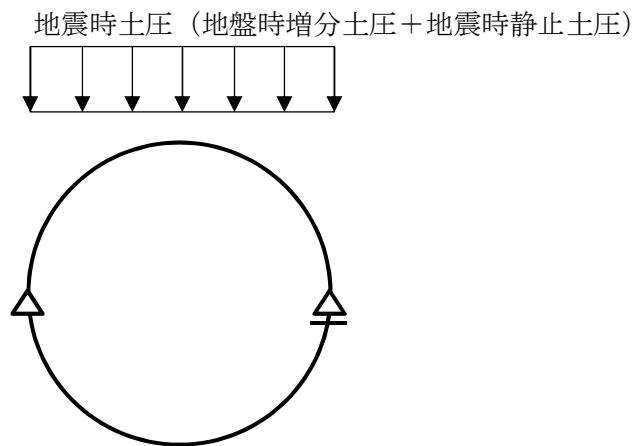


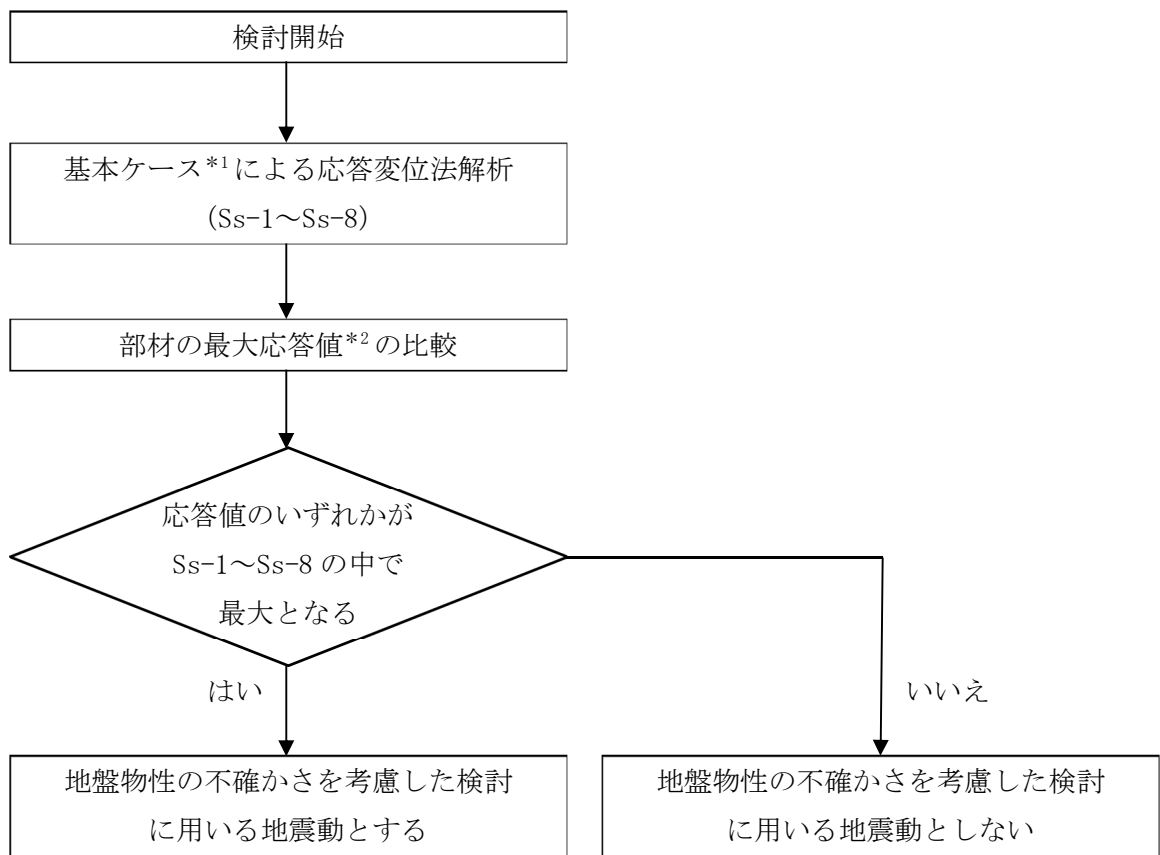
図 3-5 横断方向断面の応力解析モデル

3.4.2 地震動の選定

地盤物性の不確かさを考慮した検討に用いる地震動の選定方法について、基本ケースでの応答変位法解析結果より、最大応答値の比較を行う。ここで用いる応答値は、曲げモーメント、せん断力、せん断ひずみとする。応答値のいずれかが最大となる波を、地盤物性の不確かさを考慮した検討に用いる地震動とする。

地震動の選定フローを図 3-6 に示す。

標準地盤による応答変位法解析にて確認した最大応答値を表 3-9～表 3-20 に示す。



注記*1 : 地盤のせん断波速度：標準地盤

*2 : 応答値は、曲げモーメント、せん断力及びせん断ひずみとする。

図 3-6 地震動の選定フロー

表 3-9 原子炉建屋 最大応答曲げモーメント一覧表 (標準地盤, NS 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答曲げモーメント ($\times 10^2$ kN・m)								
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-4	Ss-5	Ss-6	Ss-7	Ss-8	最大値
シャフト 板厚20mm	12.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	10.0	1.80	1.95	<u>1.97</u>	0.954	1.07	0.987	1.02	1.43	1.97
	8.0	<u>14.7</u>	11.7	8.26	5.85	5.65	6.73	5.41	10.6	14.7
	6.0	<u>44.5</u>	34.7	28.1	19.8	17.5	22.2	15.9	40.2	44.5
	4.0	<u>81.0</u>	62.8	52.7	37.0	31.8	40.7	28.4	77.8	81.0
	2.6	<u>77.1</u>	60.0	48.8	33.9	29.0	37.1	26.1	69.9	77.1
シャフト 板厚25mm	1.1	<u>61.6</u>	48.1	36.9	25.0	21.5	27.3	19.4	49.3	61.6
	-0.4	<u>41.3</u>	31.7	22.7	15.0	13.0	16.4	12.3	30.0	41.3
	-1.9	<u>24.3</u>	18.0	12.5	8.07	7.53	8.69	7.24	16.6	24.3
	-3.4	<u>12.8</u>	10.2	8.82	5.29	5.21	5.26	4.49	9.12	12.8
	-4.9	<u>16.2</u>	14.3	13.8	7.35	8.59	7.25	7.42	12.3	16.2
	-6.0	<u>23.0</u>	19.5	19.5	10.5	11.6	10.5	10.7	15.9	23.0
	-7.6	<u>15.4</u>	13.2	12.6	6.87	7.35	6.89	6.78	9.86	15.4
	-9.2	6.01	<u>6.28</u>	5.42	2.75	2.83	2.69	2.49	3.61	6.28
	-10.8	<u>3.15</u>	3.11	2.31	1.13	1.54	1.25	1.36	1.90	3.15
-12.4	<u>3.79</u>	2.79	3.47	1.61	1.50	1.69	1.38	2.66	3.79	
ピット	-13.3	<u>3.57</u>	2.63	3.36	1.60	1.40	1.69	1.35	2.63	3.57
	-14.25	<u>2.39</u>	1.77	2.29	1.09	0.931	1.15	0.919	1.82	2.39
	-15.2	<u>0.673</u>	0.501	0.651	0.309	0.262	0.326	0.261	0.519	0.673
	-15.8	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

注：下線部は最大値を示す。

表 3-10 原子炉建屋 最大応答せん断力一覧表 (標準地盤, NS 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答せん断力 ($\times 10^2$ kN)								
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-4	Ss-5	Ss-6	Ss-7	Ss-8	最大値
シャフト 板厚20mm	12.0									
	10.0	0.900	0.975	<u>0.984</u>	0.477	0.531	0.494	0.509	0.712	0.984
	8.0	<u>7.07</u>	5.62	4.40	3.13	2.86	3.52	2.65	5.99	7.07
	6.0	<u>15.0</u>	11.9	10.00	7.00	5.93	7.69	5.29	14.9	15.0
	4.0	18.3	14.5	12.4	8.61	7.99	9.26	6.96	<u>18.8</u>	18.8
	2.6	4.93	2.46	3.79	2.44	2.31	2.70	1.97	<u>5.65</u>	5.65
シャフト 板厚25mm	1.1	12.5	7.99	8.63	5.96	5.57	6.56	4.75	<u>13.8</u>	13.8
	-0.4	14.2	11.2	9.51	6.71	5.86	7.38	5.09	<u>14.5</u>	14.5
	-1.9	<u>11.4</u>	9.47	6.90	4.69	3.86	5.09	3.63	9.22	11.4
	-3.4	<u>9.50</u>	7.42	4.32	3.16	3.04	3.75	3.02	6.58	9.50
	-4.9	<u>8.62</u>	7.52	6.27	3.64	3.16	3.94	3.13	5.88	8.62
	-6.0	<u>7.65</u>	6.85	6.44	3.43	2.98	3.65	2.96	5.16	7.65
	-7.6	<u>4.84</u>	3.95	4.38	2.26	2.63	2.25	2.43	3.76	4.84
	-9.2	<u>5.82</u>	4.66	5.02	2.66	2.83	2.70	2.74	3.92	5.82
	-10.8	<u>3.23</u>	2.50	2.80	1.45	1.51	1.49	1.49	2.13	3.23
-12.4	<u>1.46</u>	0.983	1.21	0.598	0.615	0.619	0.612	0.963	1.46	
ピット	-13.3	0.403	<u>0.436</u>	0.349	0.163	0.189	0.158	0.164	0.218	0.436
	-14.25	<u>1.25</u>	0.910	1.14	0.536	0.491	0.564	0.452	0.893	1.25
	-15.2	<u>1.81</u>	1.34	1.72	0.821	0.704	0.867	0.693	1.37	1.81
	-15.8	<u>1.13</u>	0.835	1.09	0.515	0.436	0.543	0.435	0.864	1.13

注：下線部は最大値を示す。

表 3-11 原子炉建屋 最大応答せん断ひずみ一覧表 (標準地盤, NS 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答せん断ひずみ ($\times 10^{-3}$)								
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-4	Ss-5	Ss-6	Ss-7	Ss-8	最大値
ピット 壁	-13.3~ -15.2	<u>0.00804</u>	0.00593	0.00766	0.00366	0.00314	0.00386	0.00309	0.00607	0.00804

注：下線部は最大値を示す。

表 3-12 原子炉建屋 最大応答曲げモーメント一覧表 (標準地盤, EW 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答曲げモーメント ($\times 10^2$ kN・m)								
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-4	Ss-5	Ss-6	Ss-7	Ss-8	最大値
シャフト 板厚20mm	12.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	10.0	1.80	<u>2.23</u>	1.97	1.90	1.34	1.85	1.59	1.43	2.23
	8.0	<u>14.7</u>	14.4	8.26	8.60	9.35	10.7	11.5	10.6	14.7
	6.0	44.5	<u>48.1</u>	28.1	29.2	30.9	35.3	35.6	40.2	48.1
	4.0	81.0	<u>88.4</u>	52.7	55.5	57.8	66.4	65.9	77.8	88.4
	2.6	77.1	<u>82.4</u>	48.8	50.8	52.9	60.8	60.3	69.9	82.4
シャフト 板厚25mm	1.1	61.6	<u>63.0</u>	36.9	37.4	39.2	44.9	44.8	49.3	63.0
	-0.4	<u>41.3</u>	39.1	22.7	22.2	23.7	26.9	27.3	30.0	41.3
	-1.9	<u>24.3</u>	21.8	12.5	11.9	13.1	14.5	15.0	16.6	24.3
	-3.4	12.8	<u>12.9</u>	8.82	8.16	8.85	9.17	8.92	9.12	12.9
	-4.9	16.2	<u>19.3</u>	13.8	13.8	13.4	14.7	12.6	12.3	19.3
	-6.0	23.0	<u>25.8</u>	19.5	19.0	19.1	20.1	18.9	15.9	25.8
	-7.6	15.3	<u>17.1</u>	12.6	12.6	12.4	13.3	12.3	9.85	17.1
	-9.2	5.99	<u>7.42</u>	5.41	5.42	4.69	5.66	4.52	3.59	7.42
	-10.8	3.13	<u>3.48</u>	2.29	1.78	1.92	1.92	2.18	1.90	3.48
-12.4	3.54	<u>4.62</u>	3.21	2.51	2.39	2.66	2.61	2.45	4.62	
ピット	-13.3	3.12	<u>4.14</u>	2.90	2.27	2.27	2.40	2.41	2.25	4.14
	-14.25	1.97	<u>2.62</u>	1.86	1.44	1.47	1.53	1.55	1.47	2.62
	-15.2	0.516	<u>0.689</u>	0.494	0.381	0.391	0.401	0.411	0.393	0.689
	-15.8	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

注：下線部は最大値を示す。

表 3-13 原子炉建屋 最大応答せん断力一覧表 (標準地盤, EW 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答せん断力 ($\times 10^2$ kN)								
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-4	Ss-5	Ss-6	Ss-7	Ss-8	最大値
シャフト 板厚20mm	12.0									
	10.0	0.900	<u>1.12</u>	0.984	0.949	0.669	0.925	0.793	0.712	1.12
	8.0	7.07	<u>7.52</u>	4.40	4.56	4.88	5.55	5.70	5.99	7.52
	6.0	15.0	<u>16.9</u>	10.00	10.6	10.9	12.6	12.3	14.9	16.9
	4.0	18.3	<u>20.2</u>	12.4	13.6	13.5	15.9	15.3	18.8	20.2
	2.6	4.93	4.48	3.79	3.62	3.51	4.18	4.01	<u>5.65</u>	5.65
シャフト 板厚25mm	1.1	12.5	13.0	8.63	8.95	9.15	10.7	10.4	<u>13.8</u>	13.8
	-0.4	14.2	<u>15.9</u>	9.51	10.2	10.4	12.1	11.8	14.5	15.9
	-1.9	11.4	<u>11.8</u>	6.90	6.97	7.11	8.40	8.18	9.22	11.8
	-3.4	<u>9.50</u>	7.48	4.32	3.95	5.00	4.44	5.43	6.58	9.50
	-4.9	<u>8.62</u>	7.70	6.26	4.95	5.86	5.23	6.44	5.87	8.62
	-6.0	<u>7.65</u>	7.15	6.44	5.00	5.86	5.30	6.30	5.16	7.65
	-7.6	4.85	<u>5.44</u>	4.38	4.02	4.20	4.28	4.12	3.76	5.44
	-9.2	5.82	<u>6.03</u>	5.03	4.46	4.86	4.77	4.94	3.93	6.03
	-10.8	<u>3.19</u>	<u>3.19</u>	2.77	2.34	2.65	2.50	2.70	2.11	3.19
-12.4	<u>1.28</u>	1.20	1.06	0.852	0.994	0.913	1.01	0.829	1.28	
ピット	-13.3	0.529	<u>0.588</u>	0.358	0.330	0.319	0.335	0.352	0.307	0.588
	-14.25	1.22	<u>1.60</u>	1.11	0.873	0.837	0.923	0.903	0.852	1.60
	-15.2	1.53	<u>2.04</u>	1.44	1.12	1.14	1.19	1.20	1.13	2.04
	-15.8	0.859	<u>1.15</u>	0.823	0.634	0.652	0.668	0.685	0.654	1.15

注：下線部は最大値を示す。

表 3-14 原子炉建屋 最大応答せん断ひずみ一覧表 (標準地盤, EW 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答せん断ひずみ ($\times 10^{-3}$)								
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-4	Ss-5	Ss-6	Ss-7	Ss-8	最大値
ピット 壁	-13.3~ -15.2	0.00302	<u>0.00402</u>	0.00284	0.00222	0.00225	0.00234	0.00237	0.00223	0.00402

注：下線部は最大値を示す。

表 3-15 タービン建屋 最大応答曲げモーメント一覧表 (標準地盤, NS 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答曲げモーメント ($\times 10^2$ kN・m)								
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-4	Ss-5	Ss-6	Ss-7	Ss-8	最大値
シャフト 板厚20mm	12.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	10.0	1.85	<u>2.01</u>	2.00	0.981	1.11	1.04	1.01	1.60	2.01
	8.0	<u>14.2</u>	11.3	7.91	5.59	5.43	6.45	5.22	10.1	14.2
	6.0	<u>43.6</u>	34.0	27.5	19.3	17.1	21.7	15.6	39.2	43.6
	4.0	<u>79.8</u>	61.9	51.9	36.4	31.3	40.0	27.9	76.4	79.8
	2.8	<u>80.5</u>	62.8	51.5	35.7	30.7	39.2	27.6	74.3	80.5
	1.6	<u>66.4</u>	51.9	40.9	28.0	24.0	30.5	21.6	56.3	66.4
シャフト 板厚25mm	0.6	<u>52.3</u>	40.7	30.7	20.7	17.8	22.5	16.2	39.9	52.3
	-1.4	<u>27.3</u>	20.4	13.8	8.93	8.46	9.68	8.17	18.9	27.3
	-2.9	<u>14.2</u>	10.6	8.13	5.05	4.63	5.13	4.30	8.94	14.2
	-4.4	<u>12.5</u>	11.8	11.0	5.88	6.74	5.79	5.50	9.73	12.5
	-6.0	<u>23.1</u>	19.5	19.5	10.5	11.6	10.6	10.7	15.8	23.1
	-7.5	<u>16.4</u>	14.0	13.5	7.33	7.85	7.35	7.25	10.6	16.4
	-9.0	<u>7.62</u>	7.46	6.71	3.44	3.60	3.40	3.13	4.66	7.62
-10.45	3.31	<u>4.06</u>	2.85	1.37	1.85	1.35	1.56	2.08	4.06	
ピット	-11.25	2.43	<u>2.60</u>	1.66	0.906	1.26	1.01	1.09	1.52	2.60
	-12.15	<u>1.49</u>	1.28	1.18	0.519	0.648	0.558	0.591	0.883	1.49
	-13.05	<u>0.340</u>	0.258	0.289	0.126	0.142	0.134	0.129	0.217	0.340
	-13.55	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

注：下線部は最大値を示す。

表 3-16 タービン建屋 最大応答せん断力一覧表 (標準地盤, NS 方向)

部位	標高 T.M.S.L. (m)	最大応答せん断力 ($\times 10^2$ kN)								
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-4	Ss-5	Ss-6	Ss-7	Ss-8	最大値
シャフト 板厚20mm	12.0									
	10.0	0.925	<u>1.01</u>	1.00	0.491	0.551	0.519	0.503	0.797	1.01
	8.0	<u>6.89</u>	5.50	4.28	3.04	2.78	3.43	2.58	5.79	6.89
	6.0	<u>14.8</u>	11.8	9.86	6.89	5.84	7.59	5.21	14.6	14.8
	4.0	18.1	14.4	12.3	8.53	7.94	9.17	6.90	<u>18.6</u>	18.6
	2.8	<u>1.94</u>	1.25	1.44	0.853	0.781	0.903	0.735	1.72	1.94
	1.6	13.8	9.05	9.45	6.57	6.12	7.23	5.22	<u>15.1</u>	15.1
シャフト 板厚25mm	0.6	15.6	11.3	10.4	7.32	6.69	8.09	5.71	<u>16.4</u>	16.4
	-1.4	<u>12.7</u>	10.5	8.47	5.89	4.97	6.46	4.45	12.4	12.7
	-2.9	<u>9.53</u>	7.52	4.44	2.98	2.92	3.63	2.95	6.84	9.53
	-4.4	<u>8.48</u>	7.14	5.51	3.37	3.00	3.71	2.94	5.63	8.48
	-6.0	<u>7.99</u>	7.11	6.84	3.61	3.15	3.80	3.23	5.29	7.99
	-7.5	<u>4.52</u>	3.64	4.09	2.11	2.45	2.11	2.27	3.50	4.52
	-9.0	<u>5.81</u>	4.66	5.03	2.67	2.84	2.71	2.75	3.93	5.81
ピット	-11.25	<u>2.05</u>	1.85	1.74	0.904	0.957	0.901	0.855	1.26	2.05
	-12.15	1.24	<u>1.50</u>	1.05	0.500	0.683	0.502	0.573	0.767	1.50
	-13.05	<u>1.27</u>	1.13	0.987	0.438	0.569	0.483	0.516	0.758	1.27
	-13.55	<u>0.679</u>	0.515	0.577	0.252	0.283	0.267	0.258	0.433	0.679

注：下線部は最大値を示す。

表 3-17 タービン建屋 最大応答せん断ひずみ一覧表 (標準地盤, NS 方向)

部位	標高 T.M.S.L. (m)	最大応答せん断ひずみ ($\times 10^{-3}$)								
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-4	Ss-5	Ss-6	Ss-7	Ss-8	最大値
ピット 壁	-11.25～ -13.05	0.00485	<u>0.00571</u>	0.00400	0.00191	0.00261	0.00192	0.00219	0.00293	0.00571

注：下線部は最大値を示す。

表 3-18 タービン建屋 最大応答曲げモーメント一覧表 (標準地盤, EW 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答曲げモーメント ($\times 10^2$ kN・m)								
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-4	Ss-5	Ss-6	Ss-7	Ss-8	最大値
シャフト 板厚20mm	12.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	10.0	1.85	<u>2.40</u>	2.00	2.00	1.38	1.97	1.63	1.60	2.40
	8.0	<u>14.2</u>	13.9	7.91	8.23	9.09	10.2	11.1	10.1	14.2
	6.0	43.6	<u>47.1</u>	27.5	28.5	30.2	34.5	34.8	39.2	47.1
	4.0	79.8	<u>87.1</u>	51.9	54.5	56.9	65.3	64.8	76.4	87.1
	2.8	80.5	<u>86.9</u>	51.5	53.7	56.0	64.3	63.7	74.3	86.9
	1.6	66.4	<u>69.5</u>	40.9	41.8	43.8	50.2	50.0	56.3	69.5
シャフト 板厚25mm	0.6	52.3	<u>52.5</u>	30.7	30.7	32.4	37.0	37.1	39.9	52.5
	-1.4	<u>27.3</u>	24.1	13.8	13.1	14.3	16.0	16.6	18.9	27.3
	-2.9	<u>14.2</u>	13.0	8.13	7.39	8.36	8.73	9.00	8.94	14.2
	-4.4	12.5	<u>15.5</u>	11.0	10.9	10.4	11.6	9.54	9.73	15.5
	-6.0	23.1	<u>25.7</u>	19.5	19.0	19.2	20.2	19.0	15.8	25.7
	-7.5	16.4	<u>18.2</u>	13.5	13.4	13.3	14.2	13.2	10.6	18.2
	-9.0	7.62	<u>9.16</u>	6.71	6.69	5.99	7.01	5.83	4.66	9.16
	-10.45	3.31	<u>4.01</u>	2.85	2.91	2.19	3.00	2.38	2.08	4.01
ピット	-11.25	2.43	<u>2.76</u>	1.66	1.55	1.53	1.58	1.73	1.52	2.76
	-12.15	1.49	<u>1.75</u>	1.18	0.939	0.896	1.01	1.01	0.883	1.75
	-13.05	0.340	<u>0.424</u>	0.289	0.231	0.201	0.245	0.232	0.217	0.424
	-13.55	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

注：下線部は最大値を示す。

表 3-19 タービン建屋 最大応答せん断力一覧表 (標準地盤, EW 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答せん断力 ($\times 10^2$ kN)								
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-4	Ss-5	Ss-6	Ss-7	Ss-8	最大値
シャフト 板厚20mm	12.0									
	10.0	0.925	<u>1.20</u>	1.00	0.997	0.690	0.984	0.812	0.797	1.20
	8.0	6.89	<u>7.33</u>	4.28	4.43	4.74	5.39	5.54	5.79	7.33
	6.0	14.8	<u>16.7</u>	9.86	10.4	10.7	12.4	12.1	14.6	16.7
	4.0	18.1	<u>20.1</u>	12.3	13.4	13.4	15.8	15.1	18.6	20.1
	2.8	1.94	<u>2.01</u>	1.44	1.42	1.02	1.52	1.26	1.72	2.01
	1.6	13.8	14.6	9.45	9.89	10.2	11.8	11.5	<u>15.1</u>	15.1
シャフト 板厚25mm	0.6	15.6	<u>17.0</u>	10.4	11.1	11.4	13.3	12.9	16.4	17.0
	-1.4	12.7	<u>14.3</u>	8.47	8.84	9.06	10.6	10.3	12.4	14.3
	-2.9	<u>9.53</u>	7.70	4.44	4.17	5.10	5.12	5.78	6.84	9.53
	-4.4	<u>8.48</u>	7.45	5.51	4.36	5.23	4.65	5.81	5.63	8.48
	-6.0	<u>7.99</u>	7.48	6.84	5.40	6.22	5.72	6.67	5.29	7.99
	-7.5	4.52	<u>5.00</u>	4.09	3.74	3.93	3.99	3.86	3.50	5.00
	-9.0	5.81	<u>6.02</u>	5.03	4.47	4.87	4.78	4.95	3.93	6.02
ピット	-11.25	2.05	<u>2.36</u>	1.74	1.72	1.61	1.81	1.59	1.26	2.36
	-12.15	1.24	<u>1.48</u>	1.05	1.07	0.808	1.10	0.878	0.767	1.48
	-13.05	1.27	<u>1.47</u>	0.987	0.788	0.772	0.843	0.863	0.758	1.47
	-13.55	0.679	<u>0.848</u>	0.577	0.461	0.402	0.490	0.463	0.433	0.848

注：下線部は最大値を示す。

表 3-20 タービン建屋 最大応答せん断ひずみ一覧表 (標準地盤, EW 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答せん断ひずみ ($\times 10^{-3}$)								
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-4	Ss-5	Ss-6	Ss-7	Ss-8	最大値
ピット 壁	-11.25～ -13.05	0.00485	<u>0.00562</u>	0.00400	0.00407	0.00309	0.00420	0.00335	0.00293	0.00562

注：下線部は最大値を示す。

3.4.3 地盤物性の不確かさを考慮した検討に用いる地震動

サブドレンシャフトの地盤物性の不確かさを考慮した検討に用いる地震動の算定結果を表 3-21 に示し、算定した地震動での応力解析値一覧を表 3-22～表 3-45、応力解析値の分布図を図 3-7～図 3-12 に示す。

表 3-21 地盤物性の不確かさを考慮した検討に用いる地震動

建屋名	地盤物性の不確かさを考慮した検討に用いる地震動
	基準地震動 S_s
原子炉建屋及びタービン建屋 サブドレンシャフト	$Ss-1, Ss-2, Ss-3, Ss-8$

表 3-22 原子炉建屋 最大応答曲げモーメント一覧表 (地盤剛性+ σ , NS 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答曲げモーメント ($\times 10^2$ kN・m)				
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-8	最大値
シャフト 板厚20mm	12.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	10.0	2.14	2.20	2.29	<u>2.98</u>	2.98
	8.0	<u>8.90</u>	7.40	4.02	4.73	8.90
	6.0	<u>32.4</u>	25.4	20.6	27.3	32.4
	4.0	<u>66.6</u>	49.1	43.8	58.9	66.6
	2.6	<u>56.9</u>	42.3	37.0	49.0	56.9
シャフト 板厚25mm	1.1	<u>37.2</u>	28.2	23.4	29.4	37.2
	-0.4	<u>20.5</u>	16.5	12.0	14.9	20.5
	-1.9	<u>10.3</u>	9.16	5.23	7.19	10.3
	-3.4	<u>4.97</u>	4.01	3.11	3.18	4.97
	-4.9	<u>7.06</u>	6.15	5.42	6.66	7.06
	-6.0	<u>11.0</u>	9.68	8.39	9.92	11.0
	-7.6	<u>6.49</u>	6.02	5.03	5.80	6.49
	-9.2	<u>2.49</u>	2.36	2.07	1.73	2.49
	-10.8	<u>2.39</u>	1.69	2.04	1.47	2.39
-12.4	<u>3.18</u>	2.30	2.94	2.23	3.18	
ビット	-13.3	<u>3.04</u>	2.24	2.86	2.19	3.04
	-14.25	<u>2.06</u>	1.54	1.96	1.51	2.06
	-15.2	<u>0.588</u>	0.445	0.563	0.437	0.588
	-15.8	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

注：下線部は最大値を示す。

表 3-23 原子炉建屋 最大応答せん断力一覧表 (地盤剛性+σ, NS 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答せん断力 (×10 ² kN)				
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-8	最大値
シャフト 板厚20mm	12.0					
	10.0	1.07	1.10	1.15	<u>1.49</u>	1.49
	8.0	<u>4.95</u>	3.82	2.89	3.73	4.95
	6.0	<u>12.7</u>	9.44	8.47	11.5	12.7
	4.0	<u>17.1</u>	12.3	11.7	15.9	17.1
	2.6	<u>7.20</u>	5.38	4.88	7.19	7.20
シャフト 板厚25mm	1.1	<u>13.5</u>	10.1	9.05	13.1	13.5
	-0.4	<u>11.5</u>	8.49	7.66	10.9	11.5
	-1.9	<u>6.94</u>	5.36	4.49	5.83	6.94
	-3.4	<u>4.04</u>	3.73	1.89	2.95	4.04
	-4.9	<u>4.08</u>	3.42	2.84	3.00	4.08
	-6.0	<u>4.05</u>	3.26	2.98	3.00	4.05
	-7.6	<u>2.82</u>	2.29	2.18	2.58	2.82
	-9.2	<u>2.92</u>	2.36	2.25	2.55	2.92
	-10.8	<u>1.52</u>	1.13	1.20	1.31	1.52
-12.4	<u>0.660</u>	0.465	0.559	0.596	0.660	
ピット	-13.3	<u>0.192</u>	0.126	0.136	0.096	0.192
	-14.25	<u>1.04</u>	0.734	0.948	0.722	1.04
	-15.2	<u>1.55</u>	1.15	1.47	1.13	1.55
	-15.8	<u>0.980</u>	0.742	0.939	0.729	0.980

注：下線部は最大値を示す。

表 3-24 原子炉建屋 最大応答せん断ひずみ一覧表 (地盤剛性+σ, NS 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答せん断ひずみ (×10 ⁻³)				
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-8	最大値
ピット 壁	-13.3~ -15.2	<u>0.00687</u>	0.00511	0.00652	0.00503	0.00687

注：下線部は最大値を示す。

表 3-25 原子炉建屋 最大応答曲げモーメント一覧表 (地盤剛性+σ, EW 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答曲げモーメント (×10 ² kN・m)				
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-8	最大値
シャフト 板厚20mm	12.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	10.0	2.14	<u>3.56</u>	2.29	2.98	3.56
	8.0	8.90	<u>9.54</u>	4.02	4.73	9.54
	6.0	32.4	<u>41.4</u>	20.6	27.3	41.4
	4.0	66.6	<u>83.4</u>	43.8	58.9	83.4
	2.6	56.9	<u>70.8</u>	37.0	49.0	70.8
シャフト 板厚25mm	1.1	37.2	<u>45.1</u>	23.4	29.4	45.1
	-0.4	20.5	<u>22.9</u>	12.0	14.9	22.9
	-1.9	<u>10.3</u>	9.83	5.23	7.19	10.3
	-3.4	4.98	<u>5.02</u>	3.11	3.18	5.02
	-4.9	7.05	<u>8.44</u>	5.42	6.66	8.44
	-6.0	11.0	<u>13.2</u>	8.38	9.92	13.2
	-7.6	6.48	<u>8.11</u>	5.02	5.79	8.11
	-9.2	2.50	<u>2.95</u>	2.07	1.72	2.95
	-10.8	2.39	<u>2.89</u>	2.05	1.47	2.89
-12.4	3.02	<u>3.66</u>	2.77	2.10	3.66	
ピット	-13.3	2.70	<u>3.32</u>	2.52	1.93	3.32
	-14.25	1.72	<u>2.16</u>	1.62	1.25	2.16
	-15.2	0.455	<u>0.584</u>	0.434	0.337	0.584
	-15.8	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

注：下線部は最大値を示す。

表 3-26 原子炉建屋 最大応答せん断力一覧表 (地盤剛性+σ, EW 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答せん断力 ($\times 10^2$ kN)				
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-8	最大値
シャフト 板厚20mm	12.0					
	10.0	1.07	<u>1.78</u>	1.15	1.49	1.78
	8.0	4.95	<u>5.99</u>	2.89	3.73	5.99
	6.0	12.7	<u>16.2</u>	8.47	11.5	16.2
	4.0	17.1	<u>21.2</u>	11.7	15.9	21.2
	2.6	7.20	<u>8.99</u>	4.88	7.19	8.99
シャフト 板厚25mm	1.1	13.5	<u>17.2</u>	9.05	13.1	17.2
	-0.4	11.5	<u>14.9</u>	7.66	10.9	14.9
	-1.9	6.94	<u>8.72</u>	4.49	5.83	8.72
	-3.4	<u>4.04</u>	3.56	1.89	2.95	4.04
	-4.9	4.08	<u>4.29</u>	2.84	3.00	4.29
	-6.0	4.04	<u>4.32</u>	2.98	3.00	4.32
	-7.6	2.83	<u>3.20</u>	2.18	2.58	3.20
	-9.2	2.92	<u>3.23</u>	2.26	2.55	3.23
	-10.8	1.50	<u>1.63</u>	1.19	1.30	1.63
-12.4	0.570	<u>0.597</u>	0.471	0.512	0.597	
ピット	-13.3	0.358	<u>0.368</u>	0.280	0.196	0.368
	-14.25	1.04	<u>1.23</u>	0.944	0.717	1.23
	-15.2	1.33	<u>1.66</u>	1.25	0.960	1.66
	-15.8	0.758	<u>0.973</u>	0.723	0.561	0.973

注：下線部は最大値を示す。

表 3-27 原子炉建屋 最大応答せん断ひずみ一覧表 (地盤剛性+σ, EW 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答せん断ひずみ ($\times 10^{-3}$)				
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-8	最大値
ピット 壁	-13.3~ -15.2	0.00263	<u>0.00328</u>	0.00248	0.00190	0.00328

注：下線部は最大値を示す。

表 3-28 原子炉建屋 最大応答曲げモーメント一覧表 (地盤剛性 σ , NS 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答曲げモーメント ($\times 10^2$ kN \cdot m)				
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-8	最大値
シャフト 板厚20mm	12.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	10.0	3.38	2.68	<u>3.71</u>	2.52	3.71
	8.0	<u>22.0</u>	14.9	15.0	16.1	22.0
	6.0	<u>54.6</u>	37.5	52.3	44.6	54.6
	4.0	90.8	63.2	<u>95.2</u>	81.0	95.2
	2.6	96.2	66.6	<u>100</u>	81.0	100
シャフト 板厚25mm	1.1	90.9	62.5	<u>92.6</u>	69.6	92.6
	-0.4	70.0	48.4	<u>72.4</u>	51.2	72.4
	-1.9	45.6	32.7	<u>54.0</u>	36.2	54.0
	-3.4	32.6	23.1	<u>48.9</u>	29.5	48.9
	-4.9	42.1	31.8	<u>64.9</u>	29.8	64.9
	-6.0	57.2	42.1	<u>79.2</u>	31.5	79.2
	-7.6	41.2	30.6	<u>54.7</u>	23.8	54.7
	-9.2	18.8	15.8	<u>25.3</u>	10.5	25.3
	-10.8	7.16	7.77	<u>8.47</u>	3.86	8.47
-12.4	<u>4.87</u>	4.56	4.03	2.91	4.87	
ピット	-13.3	4.35	3.35	<u>4.44</u>	3.17	4.44
	-14.25	2.83	2.25	<u>3.09</u>	2.26	3.09
	-15.2	0.781	0.625	<u>0.863</u>	0.637	0.863
	-15.8	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

注：下線部は最大値を示す。

表 3-29 原子炉建屋 最大応答せん断力一覧表 (地盤剛性- σ , NS 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答せん断力 ($\times 10^2$ kN)				
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-8	最大値
シャフト 板厚20mm	12.0					
	10.0	1.69	1.34	<u>1.86</u>	1.26	1.86
	8.0	<u>9.32</u>	6.38	8.06	7.06	9.32
	6.0	16.4	11.5	<u>18.8</u>	15.3	18.8
	4.0	18.5	13.1	<u>21.6</u>	18.2	21.6
	2.6	<u>4.06</u>	2.78	3.76	2.38	4.06
シャフト 板厚25mm	1.1	6.44	3.45	5.61	<u>7.64</u>	7.64
	-0.4	<u>15.0</u>	9.65	13.7	12.6	15.0
	-1.9	<u>17.9</u>	11.1	13.6	12.8	17.9
	-3.4	<u>18.9</u>	11.0	13.6	14.0	18.9
	-4.9	<u>18.5</u>	11.2	13.8	14.6	18.5
	-6.0	<u>16.8</u>	11.0	13.6	13.7	16.8
	-7.6	10.2	7.29	<u>15.4</u>	7.34	15.4
	-9.2	14.1	9.86	<u>18.4</u>	8.44	18.4
	-10.8	8.46	5.88	<u>10.7</u>	5.39	10.7
-12.4	3.74	2.62	<u>4.61</u>	2.54	4.61	
ピット	-13.3	1.31	1.35	<u>1.80</u>	0.694	1.80
	-14.25	<u>1.61</u>	1.44	1.44	0.987	1.61
	-15.2	2.16	1.71	<u>2.34</u>	1.70	2.34
	-15.8	1.31	1.05	<u>1.44</u>	1.07	1.44

注：下線部は最大値を示す。

表 3-30 原子炉建屋 最大応答せん断ひずみ一覧表 (地盤剛性- σ , NS 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答せん断ひずみ ($\times 10^{-3}$)				
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-8	最大値
ピット 壁	-13.3~ -15.2	0.00959	0.00760	<u>0.0105</u>	0.00757	0.0105

注：下線部は最大値を示す。

表 3-31 原子炉建屋 最大応答曲げモーメント一覧表 (地盤剛性 σ , EW 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答曲げモーメント ($\times 10^2$ kN \cdot m)				
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-8	最大値
シャフト 板厚20mm	12.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	10.0	3.38	2.48	<u>3.71</u>	2.52	3.71
	8.0	<u>22.0</u>	17.9	15.0	16.1	22.0
	6.0	<u>54.6</u>	49.7	52.3	44.6	54.6
	4.0	90.8	87.2	<u>95.2</u>	81.0	95.2
	2.6	96.2	90.6	<u>100</u>	81.0	100
シャフト 板厚25mm	1.1	90.9	83.4	<u>92.6</u>	69.6	92.6
	-0.4	70.0	65.2	<u>72.4</u>	51.2	72.4
	-1.9	45.6	47.8	<u>54.0</u>	36.2	54.0
	-3.4	32.6	35.4	<u>48.9</u>	29.5	48.9
	-4.9	42.1	45.0	<u>64.9</u>	29.7	64.9
	-6.0	57.1	55.3	<u>79.2</u>	31.5	79.2
	-7.6	41.2	40.1	<u>54.7</u>	23.7	54.7
	-9.2	18.8	18.7	<u>25.3</u>	10.5	25.3
	-10.8	7.19	6.57	<u>8.58</u>	3.86	8.58
-12.4	<u>4.55</u>	4.28	3.38	2.73	4.55	
ピット	-13.3	<u>3.80</u>	3.37	3.52	2.46	3.80
	-14.25	2.32	2.28	<u>2.37</u>	1.71	2.37
	-15.2	0.600	0.612	<u>0.634</u>	0.464	0.634
	-15.8	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

注：下線部は最大値を示す。

表 3-32 原子炉建屋 最大応答せん断力一覧表 (地盤剛性- σ , EW 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答せん断力 ($\times 10^2$ kN)				
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-8	最大値
シャフト 板厚20mm	12.0					
	10.0	1.69	1.24	<u>1.86</u>	1.26	1.86
	8.0	<u>9.32</u>	8.15	8.06	7.06	9.32
	6.0	16.4	16.2	<u>18.8</u>	15.3	18.8
	4.0	18.5	18.8	<u>21.6</u>	18.2	21.6
	2.6	<u>4.06</u>	3.28	3.76	2.38	4.06
シャフト 板厚25mm	1.1	6.44	4.98	5.61	<u>7.64</u>	7.64
	-0.4	<u>15.0</u>	12.2	13.7	12.6	15.0
	-1.9	<u>17.9</u>	12.4	13.6	12.8	17.9
	-3.4	<u>18.9</u>	13.6	13.6	14.0	18.9
	-4.9	<u>18.5</u>	17.0	13.8	14.6	18.5
	-6.0	16.8	<u>17.1</u>	13.6	13.7	17.1
	-7.6	10.2	10.6	<u>15.4</u>	7.34	15.4
	-9.2	14.1	13.4	<u>18.4</u>	8.44	18.4
	-10.8	8.37	8.13	<u>10.6</u>	5.31	10.6
-12.4	3.43	3.43	<u>4.30</u>	2.27	4.30	
ピット	-13.3	1.41	1.34	<u>1.75</u>	0.740	1.75
	-14.25	<u>1.56</u>	1.47	1.24	0.929	1.56
	-15.2	1.82	1.76	<u>1.83</u>	1.31	1.83
	-15.8	0.999	1.02	<u>1.06</u>	0.773	1.06

注：下線部は最大値を示す。

表 3-33 原子炉建屋 最大応答せん断ひずみ一覧表 (地盤剛性- σ , EW 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答せん断ひずみ ($\times 10^{-3}$)				
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-8	最大値
ピット 壁	-13.3~ -15.2	0.00359	0.00347	<u>0.00361</u>	0.00259	0.00361

注：下線部は最大値を示す。

表 3-34 タービン建屋 最大応答曲げモーメント一覧表 (地盤剛性+σ, NS 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答曲げモーメント (×10 ² kN・m)				
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-8	最大値
シャフト 板厚20mm	12.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	10.0	2.28	2.30	2.38	<u>3.12</u>	3.12
	8.0	<u>8.40</u>	7.08	3.82	4.23	8.40
	6.0	<u>31.2</u>	24.5	19.7	26.2	31.2
	4.0	<u>64.7</u>	47.7	42.5	57.1	64.7
	2.8	<u>60.3</u>	44.7	39.3	52.4	60.3
	1.6	<u>43.3</u>	32.6	27.7	35.8	43.3
シャフト 板厚25mm	0.6	<u>29.8</u>	22.8	18.4	22.4	29.8
	-1.4	<u>11.9</u>	10.6	6.12	8.41	11.9
	-2.9	<u>5.53</u>	5.15	2.79	3.56	5.53
	-4.4	<u>4.91</u>	4.25	4.03	4.63	4.91
	-6.0	<u>11.1</u>	9.72	8.44	9.93	11.1
	-7.5	<u>6.97</u>	6.44	5.39	6.22	6.97
	-9.0	<u>3.09</u>	2.93	2.55	2.33	3.09
-10.45	<u>2.30</u>	1.51	1.58	1.19	2.30	
ピット	-11.25	<u>1.99</u>	1.39	1.66	1.20	1.99
	-12.15	<u>1.33</u>	0.912	1.15	0.853	1.33
	-13.05	<u>0.316</u>	0.219	0.279	0.211	0.316
	-13.55	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

注：下線部は最大値を示す。

表 3-35 タービン建屋 最大応答せん断力一覧表 (地盤剛性+σ, NS 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答せん断力 (×10 ² kN)				
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-8	最大値
シャフト 板厚20mm	12.0					
	10.0	1.14	1.15	1.19	<u>1.56</u>	1.56
	8.0	<u>4.77</u>	3.68	2.76	3.54	4.77
	6.0	<u>12.4</u>	9.22	8.25	11.2	12.4
	4.0	<u>16.8</u>	12.0	11.4	15.5	16.8
	2.8	<u>4.35</u>	2.95	2.91	4.13	4.35
	1.6	<u>14.4</u>	10.7	9.64	13.9	14.4
シャフト 板厚25mm	0.6	<u>14.0</u>	10.4	9.30	13.4	14.0
	-1.4	<u>9.23</u>	6.90	6.13	8.52	9.23
	-2.9	<u>4.35</u>	3.81	2.46	3.24	4.35
	-4.4	<u>3.77</u>	3.28	2.38	2.65	3.77
	-6.0	<u>4.34</u>	3.57	3.25	3.35	4.34
	-7.5	<u>2.73</u>	2.19	2.13	2.48	2.73
	-9.0	<u>3.00</u>	2.41	2.31	2.60	3.00
-10.45	<u>1.60</u>	1.28	1.23	1.39	1.60	
ピット	-11.25	<u>0.799</u>	0.735	0.632	0.671	0.799
	-12.15	<u>0.847</u>	0.562	0.583	0.434	0.847
	-13.05	<u>1.12</u>	0.770	0.965	0.714	1.12
	-13.55	<u>0.631</u>	0.438	0.558	0.421	0.631

注：下線部は最大値を示す。

表 3-36 タービン建屋 最大応答せん断ひずみ一覧表 (地盤剛性+σ, NS 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答せん断ひずみ (×10 ⁻³)				
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-8	最大値
ピット 壁	-11.25～ -13.05	<u>0.00428</u>	0.00294	0.00368	0.00273	0.00428

注：下線部は最大値を示す。

表 3-37 タービン建屋 最大応答曲げモーメント一覧表 (地盤剛性+ σ , EW 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答曲げモーメント ($\times 10^2$ kN・m)				
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-8	最大値
シャフト 板厚20mm	12.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	10.0	2.28	<u>3.70</u>	2.38	3.12	3.70
	8.0	8.40	<u>8.84</u>	3.82	4.23	8.84
	6.0	31.2	<u>40.0</u>	19.7	26.2	40.0
	4.0	64.7	<u>81.0</u>	42.5	57.1	81.0
	2.8	60.3	<u>75.3</u>	39.3	52.4	75.3
	1.6	43.3	<u>53.4</u>	27.7	35.8	53.4
シャフト 板厚25mm	0.6	29.8	<u>35.4</u>	18.4	22.4	35.4
	-1.4	<u>11.9</u>	11.6	6.12	8.41	11.9
	-2.9	<u>5.53</u>	4.79	2.79	3.56	5.53
	-4.4	4.91	<u>5.91</u>	4.03	4.63	5.91
	-6.0	11.1	<u>13.3</u>	8.44	9.93	13.3
	-7.5	6.97	<u>8.70</u>	5.39	6.22	8.70
	-9.0	3.09	<u>3.76</u>	2.55	2.33	3.76
-10.45	2.30	<u>2.39</u>	1.58	1.19	2.39	
ピット	-11.25	1.99	<u>2.32</u>	1.66	1.20	2.32
	-12.15	1.33	<u>1.53</u>	1.15	0.853	1.53
	-13.05	0.316	<u>0.364</u>	0.279	0.211	0.364
	-13.55	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

注：下線部は最大値を示す。

表 3-38 タービン建屋 最大応答せん断力一覧表 (地盤剛性+σ, EW 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答せん断力 (×10 ² kN)				
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-8	最大値
シャフト 板厚20mm	12.0					
	10.0	1.14	<u>1.85</u>	1.19	1.56	1.85
	8.0	4.77	<u>5.73</u>	2.76	3.54	5.73
	6.0	12.4	<u>15.8</u>	8.25	11.2	15.8
	4.0	16.8	<u>20.8</u>	11.4	15.5	20.8
	2.8	4.35	<u>4.83</u>	2.91	4.13	4.83
	1.6	14.4	<u>18.3</u>	9.64	13.9	18.3
シャフト 板厚25mm	0.6	14.0	<u>18.0</u>	9.30	13.4	18.0
	-1.4	9.23	<u>12.0</u>	6.13	8.52	12.0
	-2.9	4.35	<u>4.64</u>	2.46	3.24	4.64
	-4.4	3.77	<u>3.96</u>	2.38	2.65	3.96
	-6.0	4.34	<u>4.72</u>	3.25	3.35	4.72
	-7.5	2.73	<u>3.06</u>	2.13	2.48	3.06
	-9.0	3.00	<u>3.30</u>	2.31	2.60	3.30
-10.45	1.60	<u>1.77</u>	1.23	1.39	1.77	
ピット	-11.25	0.799	<u>0.988</u>	0.632	0.671	0.988
	-12.15	0.847	<u>0.879</u>	0.583	0.434	0.879
	-13.05	1.12	<u>1.29</u>	0.965	0.714	1.29
	-13.55	0.631	<u>0.728</u>	0.558	0.421	0.728

注：下線部は最大値を示す。

表 3-39 タービン建屋 最大応答せん断ひずみ一覧表 (地盤剛性+σ, EW 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答せん断ひずみ (×10 ⁻³)				
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-8	最大値
ピット 壁	-11.25～ -13.05	0.00428	<u>0.00491</u>	0.00368	0.00273	0.00491

注：下線部は最大値を示す。

表 3-40 タービン建屋 最大応答曲げモーメント一覧表 (地盤剛性 σ , NS 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答曲げモーメント ($\times 10^2$ kN・m)				
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-8	最大値
シャフト 板厚20mm	12.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	10.0	3.31	2.66	<u>3.77</u>	2.46	3.77
	8.0	<u>21.8</u>	14.8	15.0	15.9	21.8
	6.0	<u>54.5</u>	37.4	52.5	44.5	54.5
	4.0	91.0	63.4	<u>95.9</u>	81.1	95.9
	2.8	98.7	68.7	<u>105</u>	85.1	105
	1.6	92.1	63.8	<u>95.7</u>	74.0	95.7
シャフト 板厚25mm	0.6	80.7	55.8	<u>83.3</u>	61.2	83.3
	-1.4	50.3	35.4	<u>55.6</u>	37.2	55.6
	-2.9	31.6	22.8	<u>44.2</u>	28.3	44.2
	-4.4	37.0	27.1	<u>56.5</u>	27.3	56.5
	-6.0	57.0	41.9	<u>78.4</u>	31.5	78.4
	-7.5	43.7	32.4	<u>57.8</u>	25.3	57.8
	-9.0	23.1	18.5	<u>30.7</u>	13.1	30.7
	-10.45	10.1	10.1	<u>13.9</u>	5.17	13.9
ビット	-11.25	5.99	6.33	<u>7.56</u>	3.14	7.56
	-12.15	2.68	<u>2.99</u>	2.91	1.47	2.99
	-13.05	0.499	<u>0.569</u>	0.456	0.291	0.569
	-13.55	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

注：下線部は最大値を示す。

表 3-41 タービン建屋 最大応答せん断力一覧表 (地盤剛性- σ , NS 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答せん断力 ($\times 10^2$ kN)				
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-8	最大値
シャフト 板厚20mm	12.0					
	10.0	1.66	1.33	<u>1.89</u>	1.23	1.89
	8.0	<u>9.28</u>	6.36	8.06	7.00	9.28
	6.0	16.5	11.6	<u>18.9</u>	15.3	18.9
	4.0	18.6	13.2	<u>21.9</u>	18.4	21.9
	2.8	6.65	4.59	<u>7.00</u>	4.54	7.00
	1.6	8.26	4.70	7.19	<u>9.34</u>	9.34
シャフト 板厚25mm	0.6	<u>12.8</u>	8.07	12.5	<u>12.8</u>	12.8
	-1.4	<u>16.6</u>	10.6	14.2	12.1	16.6
	-2.9	<u>18.0</u>	10.7	13.2	13.2	18.0
	-4.4	<u>18.1</u>	10.6	13.0	14.0	18.1
	-6.0	<u>16.8</u>	11.3	14.4	13.7	16.8
	-7.5	9.22	6.52	<u>13.8</u>	6.69	13.8
	-9.0	13.9	9.69	<u>18.1</u>	8.24	18.1
-10.45	9.14	6.47	<u>11.7</u>	5.60	11.7	
ピット	-11.25	6.07	4.68	<u>7.96</u>	3.56	7.96
	-12.15	3.74	3.76	<u>5.17</u>	1.93	5.17
	-13.05	2.43	2.69	<u>2.73</u>	1.33	2.73
	-13.55	0.997	<u>1.14</u>	0.911	0.581	1.14

注：下線部は最大値を示す。

表 3-42 タービン建屋 最大応答せん断ひずみ一覧表 (地盤剛性- σ , NS 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答せん断ひずみ ($\times 10^{-3}$)				
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-8	最大値
ピット 壁	-11.25~ -13.05	0.0143	0.0144	<u>0.0198</u>	0.00736	0.0198

注：下線部は最大値を示す。

表 3-43 タービン建屋 最大応答曲げモーメント一覧表 (地盤剛性 σ , EW 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答曲げモーメント ($\times 10^2$ kN \cdot m)				
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-8	最大値
シャフト 板厚20mm	12.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	10.0	3.31	2.47	<u>3.77</u>	2.46	3.77
	8.0	<u>21.8</u>	17.8	15.0	15.9	21.8
	6.0	<u>54.5</u>	49.6	52.5	44.5	54.5
	4.0	91.0	87.5	<u>95.9</u>	81.1	95.9
	2.8	98.7	94.1	<u>105</u>	85.1	105
	1.6	92.1	86.1	<u>95.7</u>	74.0	95.7
シャフト 板厚25mm	0.6	80.7	75.0	<u>83.3</u>	61.2	83.3
	-1.4	50.3	49.9	<u>55.6</u>	37.2	55.6
	-2.9	31.6	36.2	<u>44.2</u>	28.3	44.2
	-4.4	37.0	39.5	<u>56.5</u>	27.3	56.5
	-6.0	57.0	55.0	<u>78.4</u>	31.5	78.4
	-7.5	43.7	42.5	<u>57.8</u>	25.3	57.8
	-9.0	23.1	22.9	<u>30.7</u>	13.1	30.7
	-10.45	10.1	10.3	<u>13.9</u>	5.17	13.9
ピット	-11.25	5.99	5.71	<u>7.56</u>	3.14	7.56
	-12.15	2.68	2.35	<u>2.91</u>	1.47	2.91
	-13.05	<u>0.499</u>	0.476	0.456	0.291	0.499
	-13.55	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

注：下線部は最大値を示す。

表 3-44 タービン建屋 最大応答せん断力一覧表 (地盤剛性- σ , EW 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答せん断力 ($\times 10^2$ kN)				
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-8	最大値
シャフト 板厚20mm	12.0					
	10.0	1.66	1.24	<u>1.89</u>	1.23	1.89
	8.0	<u>9.28</u>	8.12	8.06	7.00	9.28
	6.0	16.5	16.3	<u>18.9</u>	15.3	18.9
	4.0	18.6	19.0	<u>21.9</u>	18.4	21.9
	2.8	6.65	5.54	<u>7.00</u>	4.54	7.00
	1.6	8.26	6.71	7.19	<u>9.34</u>	9.34
シャフト 板厚25mm	0.6	<u>12.8</u>	11.2	12.5	<u>12.8</u>	12.8
	-1.4	<u>16.6</u>	12.7	14.2	12.1	16.6
	-2.9	<u>18.0</u>	12.4	13.2	13.2	18.0
	-4.4	<u>18.1</u>	15.8	13.0	14.0	18.1
	-6.0	16.8	<u>17.4</u>	14.4	13.7	17.4
	-7.5	9.22	9.54	<u>13.8</u>	6.69	13.8
	-9.0	13.9	13.1	<u>18.1</u>	8.24	18.1
-10.45	9.14	8.85	<u>11.7</u>	5.60	11.7	
ピット	-11.25	6.07	6.04	<u>7.96</u>	3.56	7.96
	-12.15	3.74	3.83	<u>5.17</u>	1.93	5.17
	-13.05	2.43	2.14	<u>2.73</u>	1.33	2.73
	-13.55	<u>0.997</u>	0.951	0.911	0.581	0.997

注：下線部は最大値を示す。

表 3-45 タービン建屋 最大応答せん断ひずみ一覧表 (地盤剛性- σ , EW 方向)

部位	標高 T. M. S. L. (m)	最大応答せん断ひずみ ($\times 10^{-3}$)				
		Ss-1	Ss-2	Ss-3	Ss-8	最大値
ピット 壁	-11.25~ -13.05	0.0143	0.0147	<u>0.0198</u>	0.00736	0.0198

注：下線部は最大値を示す。

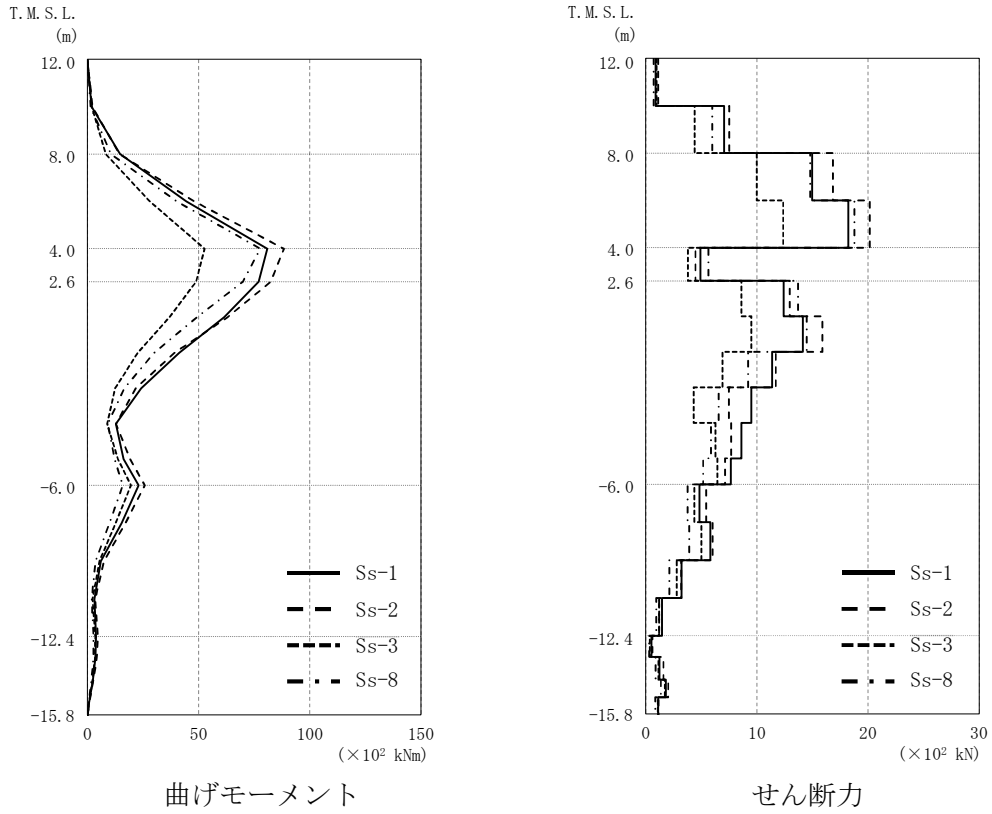


図 3-7 地盤物性の不確かさを考慮した検討による応力解析結果（原子炉建屋，標準地盤）

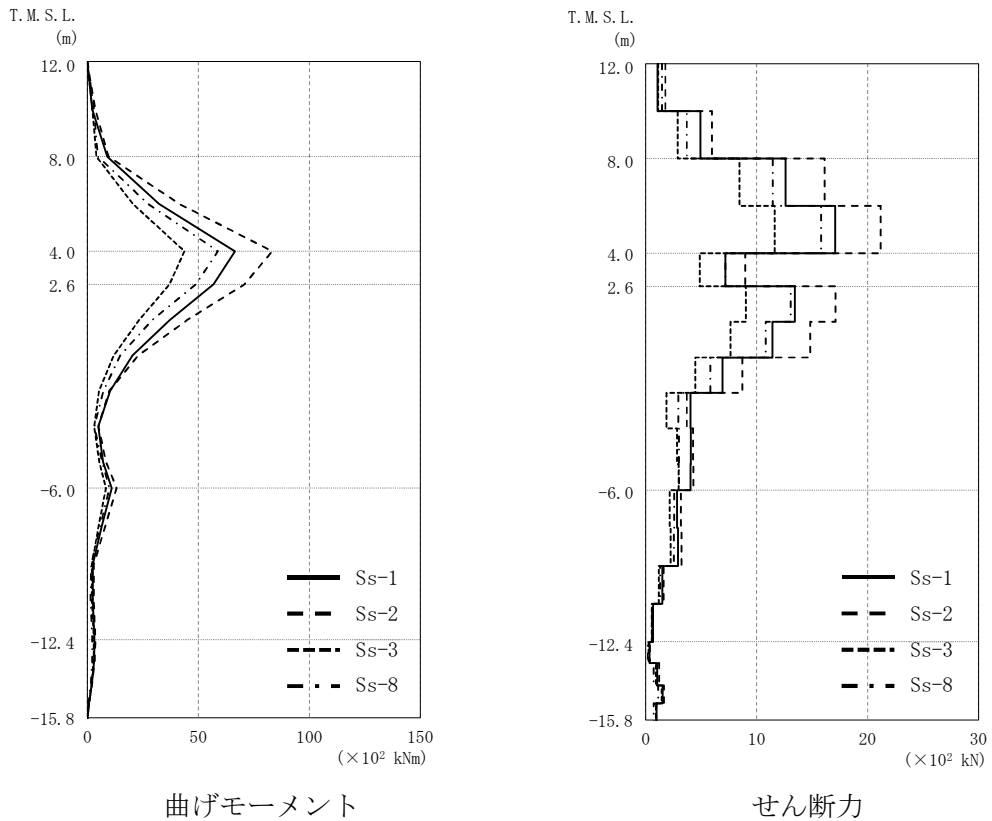
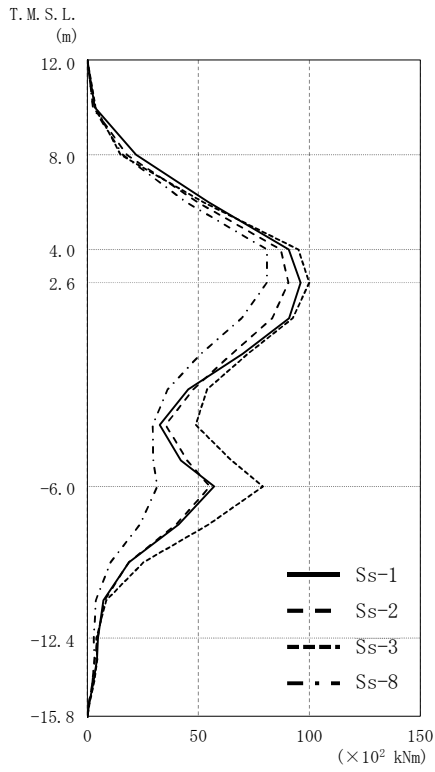
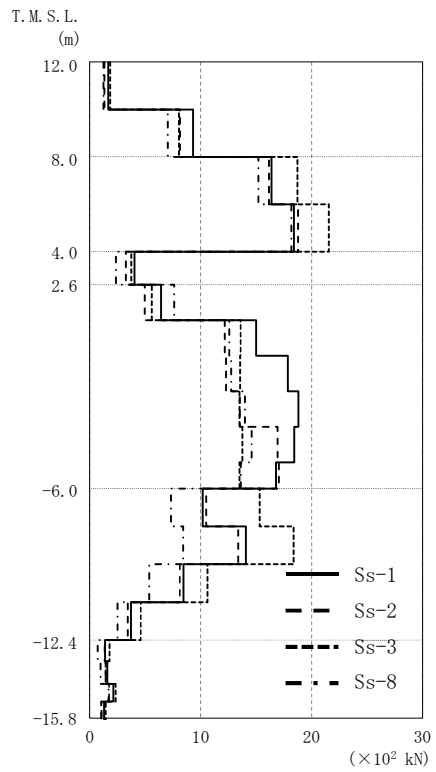


図 3-8 地盤物性の不確かさを考慮した検討による応力解析結果（原子炉建屋，地盤剛性+ σ ）

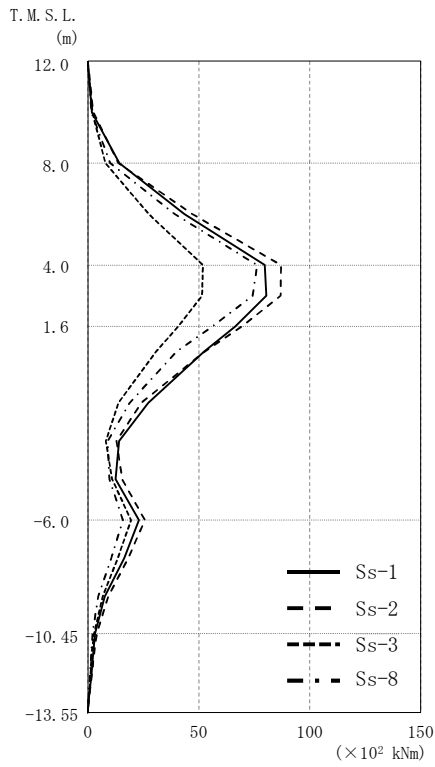


曲げモーメント

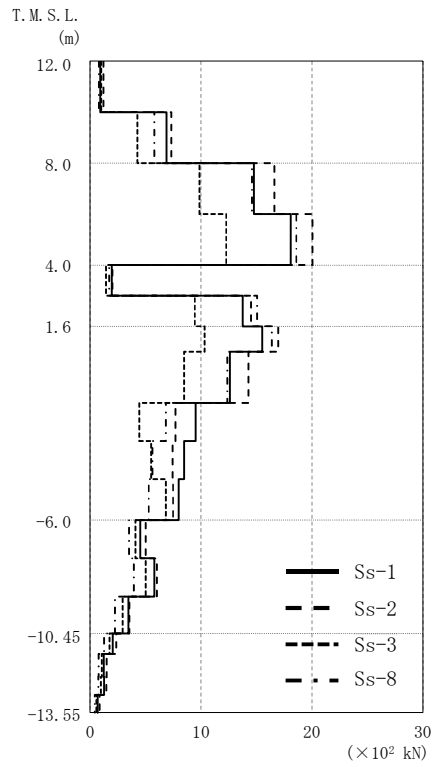


せん断力

図 3-9 地盤物性の不確かさを考慮した検討による応力解析結果（原子炉建屋，地盤剛性- σ ）



曲げモーメント



せん断力

図 3-10 地盤物性の不確かさを考慮した検討による応力解析結果（タービン建屋，標準地盤）

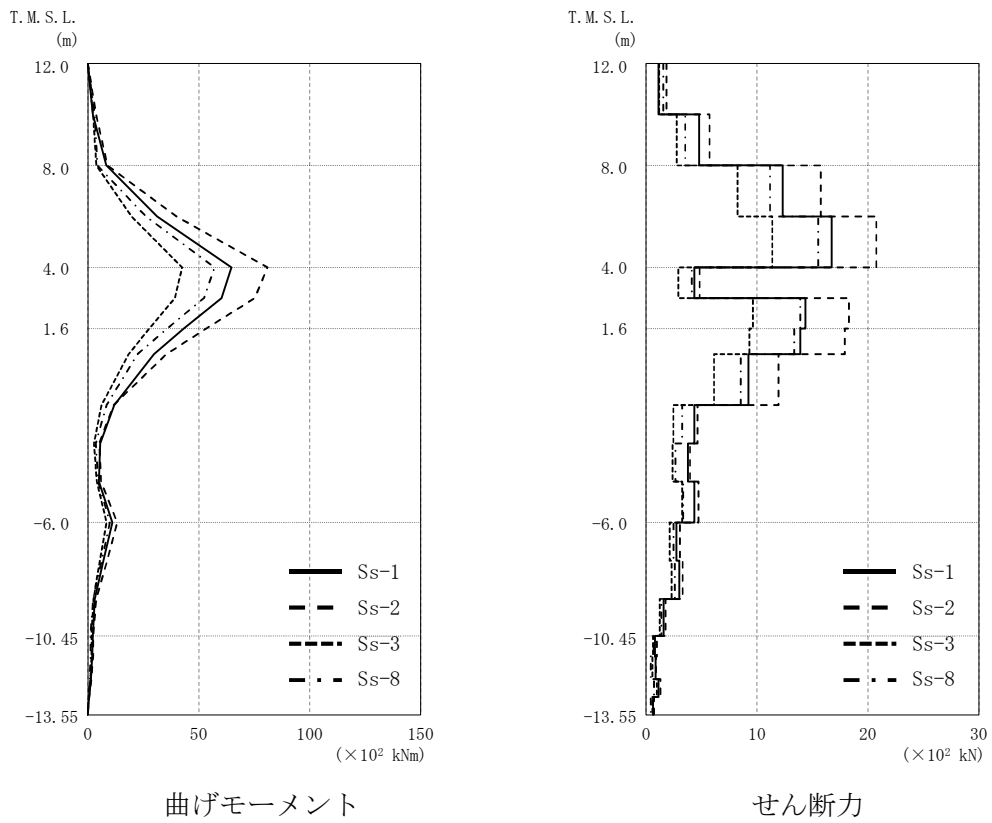


図 3-11 地盤物性の不確かさを考慮した検討による応力解析結果（タービン建屋，地盤剛性+σ）

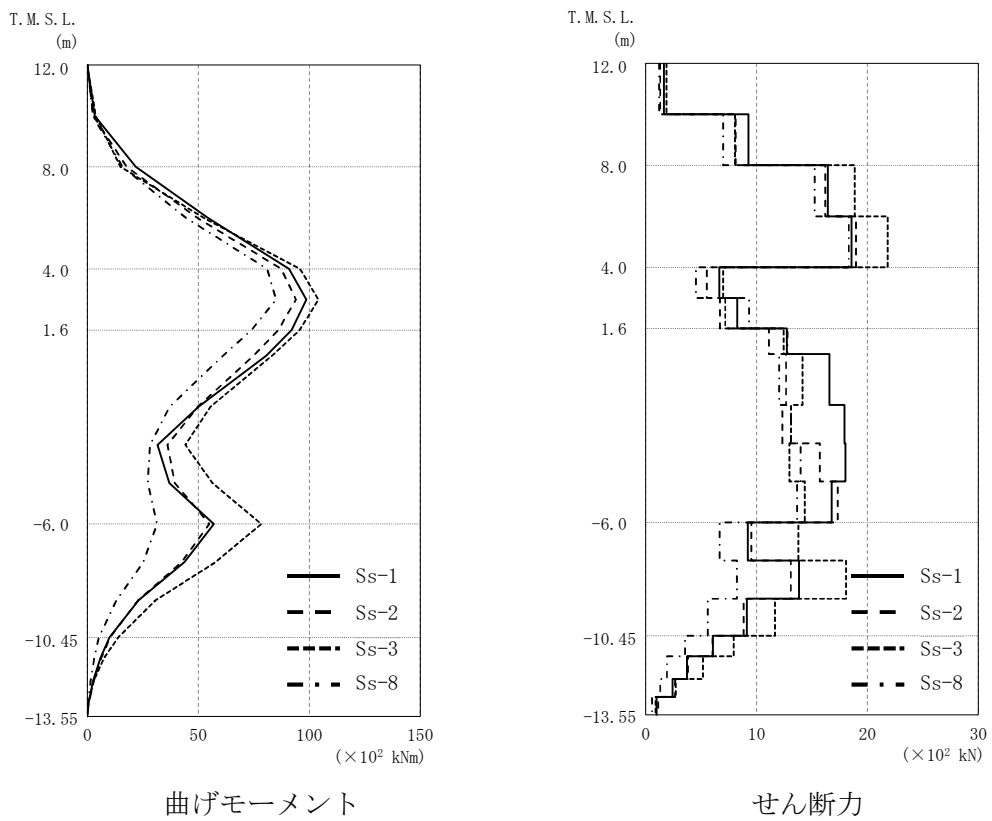


図 3-12 地盤物性の不確かさを考慮した検討による応力解析結果（タービン建屋，地盤剛性-σ）

3.5 応力解析による最大応答値のまとめ

3.5.1 管軸方向断面の最大応答値

地盤物性の不確かさを考慮した検討による管軸方向断面での検定値が最大となる曲げモーメント，せん断力，軸力の最大応答値を表 3-46～表 3-48 に示す。

表 3-46 地盤物性の不確かさを考慮した曲げモーメントの最大応答値 (kN・m)

建屋	標準地盤	地盤剛性 + σ	地盤剛性 - σ
原子炉建屋	8840 (S _s -2)	8340 (S _s -2)	10000 (S _s -3)
タービン建屋	8710 (S _s -2)	8100 (S _s -2)	10500 (S _s -3)

表 3-47 地盤物性の不確かさを考慮したせん断力の最大応答値 (kN)

建屋	標準地盤	地盤剛性 + σ	地盤剛性 - σ
原子炉建屋	2020 (S _s -2)	2120 (S _s -2)	2160 (S _s -3)
タービン建屋	2010 (S _s -2)	2080 (S _s -2)	2190 (S _s -3)

表 3-48 地盤物性の不確かさを考慮した軸力の最大応答値 (kN)

建屋	標準地盤	地盤剛性 + σ	地盤剛性 - σ
原子炉建屋	153 (S _s -3)	154 (S _s -3)	151 (S _s -3)
タービン建屋	150 (S _s -3)	151 (S _s -3)	147 (S _s -3)

3.5.2 横断方向断面の最大応答値

地盤物性の不確かさを考慮した検討による横断方向断面での検定値が最大となる曲げモーメント，せん断力の最大応答値を表 3-49～表 3-50 に示す。

表 3-49 地盤物性の不確かさを考慮した曲げモーメントの最大応答値 (kN・m)

建屋	標準地盤	地盤剛性 + σ	地盤剛性 - σ
原子炉建屋	10.3 (S _s -8)	9.65 (S _s -2)	12.7 (S _s -3)
タービン建屋	9.71 (S _s -8)	9.32 (S _s -2)	11.4 (S _s -3)

表 3-50 地盤物性の不確かさを考慮したせん断力の最大応答値 (kN)

建屋	標準地盤	地盤剛性 + σ	地盤剛性 - σ
原子炉建屋	93.2 (S _s -8)	96.4 (S _s -2)	127 (S _s -3)
タービン建屋	85.8 (S _s -8)	90.5 (S _s -2)	113 (S _s -3)

4. 評価結果

4.1 管軸方向断面の評価結果

サブドレンシャフトの管軸方向断面（鉛直断面）の応答変位法による応力解析で得られた検定値が最大となる曲げモーメント及びせん断力について、鋼管断面の評価結果を表4-1～表4-2に示す。

発生応力度が許容限界を超えないことを確認した。

表4-1 原子炉建屋サブドレンシャフトの管軸方向断面の評価結果

構造諸元	呼び径		1700
	内径 (mm) × 鋼板厚 (mm)		1700×20
発生断面力	曲げモーメント	M (kN・m)	10000
	軸力	N (kN)	154
	せん断力	S (kN)	2160
発生応力度	曲げ応力度	σ_b (N/mm ²)	218
	圧縮応力度	σ_c (N/mm ²)	1.43
	せん断応力度	τ (N/mm ²)	40.0
許容限界	曲げ応力に関する弾性限強度	f_b (N/mm ²)	258
	圧縮応力に関する弾性限強度	f_c (N/mm ²)	252
	せん断応力に関する弾性限強度	f_s (N/mm ²)	148
検定値	$\sigma_b / f_b + \sigma_c / f_c$		0.86
	τ / f_s		0.28
判定			可

表 4-2 タービン建屋サブドレンシャフトの管軸方向断面の評価結果

構造諸元	呼び径	1700
	内径 (mm) × 鋼板厚 (mm)	1700 × 20
発生断面力	曲げモーメント M (kN・m)	10500
	軸力 N (kN)	151
	せん断力 S (kN)	2190
発生応力度	曲げ応力度 σ_b (N/mm ²)	229
	圧縮応力度 σ_c (N/mm ²)	1.40
	せん断応力度 τ (N/mm ²)	40.6
許容限界	曲げ応力に関する弾性限強度 f_b (N/mm ²)	258
	圧縮応力に関する弾性限強度 f_c (N/mm ²)	252
	せん断応力に関する弾性限強度 f_s (N/mm ²)	148
検定値	$\sigma_b / f_b + \sigma_c / f_c$	0.90
	τ / f_s	0.28
判定		可

4.2 横断方向断面の評価結果

サブドレンシャフトの横断方向（水平方向）断面の応力解析で得られた検定値が最大となる曲げモーメント及びせん断力について、鋼管断面の評価結果を表 4-3～表 4-4 に示す。
発生応力度が許容限界を超えないことを確認した。

表 4-3 (1/2) 原子炉建屋サブドレンシャフトの横断方向断面の評価結果

構造諸元	呼び径	1700
	内径 (mm) × 鋼板厚 (mm)	1700×20
発生断面力	曲げモーメント M (kN・m)	10.3*
発生応力度	曲げ応力度 σ_b (N/mm ²)	155
許容限界	曲げ応力に関する弾性限強度 f_b (N/mm ²)	297
検定値	σ_b / f_b	0.53
判定		可

注記* : 板厚との関係で検定値が最大となる標準地盤の曲げモーメント

表 4-3 (2/2) 原子炉建屋サブドレンシャフトの横断方向断面の評価結果

構造諸元	呼び径	1700
	内径 (mm) × 鋼板厚 (mm)	1700×25
発生断面力	せん断力 S (kN)	127
発生応力度	せん断応力度 τ (N/mm ²)	6.11
許容限界	せん断応力に関する弾性限強度 f_s (N/mm ²)	148
検定値	τ / f_s	0.05
判定		可

表 4-4 (1/2) タービン建屋サブドレンシャフトの横断方向断面の評価結果

構造諸元	呼び径	1700
	内径 (mm) × 鋼板厚 (mm)	1700 × 20
発生断面力	曲げモーメント M (kN・m)	9.71*
発生応力度	曲げ応力度 σ_b (N/mm ²)	146
許容限界	曲げ応力に関する弾性限強度 f_b (N/mm ²)	297
検定値	σ_b / f_b	0.50
判定		可

注記* : 板厚との関係で検定値が最大となる標準地盤の曲げモーメント

表 4-4 (2/2) タービン建屋サブドレンシャフトの横断方向断面の評価結果

構造諸元	呼び径	1700
	内径 (mm) × 鋼板厚 (mm)	1700 × 25
発生断面力	せん断力 S (kN)	113
発生応力度	せん断応力度 τ (N/mm ²)	5.44
許容限界	せん断応力に関する弾性限強度 f_s (N/mm ²)	148
検定値	τ / f_s	0.04
判定		可

参考資料 1. 本計算書以外のサブドレンシャフトの耐震性について

1. 概要

本計算書に示す 6R-1 及び 6T-7 以外のサブドレンシャフトが，S s 地震時において集水を期待するサブドレンピットへ波及的影響を及ぼさないことを確認する。

2. 評価方針

令和 2 年 10 月 14 日付け原規規発第 2010147 号にて認可された柏崎刈羽原子力発電所第 7 号機的设计及び工事の計画（以下，「7 号機設工認」という。）の V-2-2-別添 1-2-6「サブドレンシャフトの耐震性についての計算書」にて，集水を期待するサブドレンピットである 7R-1，7R-2，7R-3，7R-4-1，7T-5，7T-6，7T-7，6R-1，6R-3，6R-4，6T-5，6T-6 及び 6T-7 に設置されているサブドレンシャフトについては，S s 地震時において集水を期待するサブドレンピットへ波及的影響を及ぼさないことを確認しているため，6R-2 のサブドレンシャフトがサブドレンピットへ波及的影響を及ぼさないことを確認する。

3. 評価結果

表 3-1 に示すとおり，6R-2 のサブドレンシャフトの板厚及び内径の諸元は，6R-1 と同じであることから，サブドレンピットへ波及的影響を及ぼすことはない。

表 3-1 サブドレンシャフトの板厚及び内径の諸元

ピット番号	曲げモーメント		せん断力		内径
	最大発生値位置	最大発生値位置の板厚	最大発生値位置	最大発生値位置の板厚	
6R-1	T. M. S. L. 2. 60m	20mm	T. M. S. L. 6. 0m	20mm	1700mm
6R-2		20mm		20mm	1700mm

参考資料 2. タービン建屋側地盤層序の影響評価について

1. 概要

6号機地下水排水設備の評価においては、VI-2-2-1「原子炉建屋の地震応答計算書」に基づき原子炉建屋評価にて採用した地盤（以下、「設工認地盤」という。）を元に評価を実施している。

6号機タービン建屋の海側に設置されている地下水排水設備は、周囲にタービン建屋及び既存の自然地盤が存在していることから、地下水排水設備の変位を拘束する効果が期待できると考えられるが、西側の一部は埋戻土であるため、地下水排水設備の周囲を全層新期砂層と仮定し、設工認地盤による解析結果に対する影響を確認する。

2. 評価方針

2.1 地盤の物性値

タービン建屋西側の地盤は、地表面からサブドレンピットの底部スラブ底面（T.M.S.L. - 13.55m）までが新期砂層（以下、「影響検討ケース」という。）であると仮定し、VI-2-2-別添1-2-1「地下水排水設備設置位置の地盤応答」に記載した設工認標準地盤における新期砂層の物性値を用いる。

地盤の物性値を表2-1に示す。

表 2-1 地盤の物性値

標高 T.M.S.L. (m)	設工認地盤			影響検討ケース	
	地層区分	地盤のせん断波速度 (m/s)		地層区分	地盤のせん断波速度 (m/s)
		標準地盤	-σ		
12.0 ~ 8.0	新期砂層	150	131	新期砂層	150
8.0 ~ 4.0		200	174		200
4.0 ~ -6.0	古安田層	330	248	新期砂層	
-6.0 ~ -13.55	西山層	490	441		西山層
-13.55 ~ -33.0		490	441	490	
-33.0 ~ -90.0		530	477	530	
-90.0 ~ -136.0		590	531	590	
-136.0 ~ -155.0		650	585		650

2.2 地震動

検討に用いる地震動は、基準地震動 Ss-1~Ss-8 における応答値を比較し、最も大きい応答値となった Ss-1 を選定する。

2.3 評価方法

応力解析の方法は、本計算書「3.4 評価方法」に示す通りとする。

設工認地盤にて算出している地盤物性の不確かさを考慮した応答値の最大となる地盤剛性 σ の Ss-3 における評価結果と影響検討ケースによる標準地盤の Ss-1 における評価結果を比較し、影響がないことを確認する。

2.3.1 サブドレンシャフトの評価

サブドレンシャフトは管軸方向断面と横断方向断面の評価を実施する。

管軸方向断面評価は、影響検討ケースにおける曲げモーメント及びせん断力の最大発生断面力を算出し、影響がないことを確認する。

横断方向断面評価は、地震時土圧を用いた評価をしていることから、地震時土圧を算出し、影響がないことを確認する。

2.3.2 サブドレンピットの評価

サブドレンピットについても評価を行うものとし、サブドレンピット壁の最大せん断ひずみ及び地震時土圧、サブドレン上部スラブ及び底部スラブの曲げモーメント並びにせん断力を算出し、影響がないことを確認する。

3. 評価結果

管軸方向の曲げモーメント及びせん断力の比較を表 3-1 に、サブドレンピット壁のせん断ひずみの比較を表 3-2 に、サブドレンシャフト及びサブドレンピット壁に作用する地震時土圧の比較を表 3-3 に、サブドレンピットスラブの曲げモーメント及びせん断力の比較を表 3-4 に、管軸方向の曲げモーメント及びせん断力分布を図 3-1 に示す。

評価項目のいずれにおいても、設工認地盤の評価結果と比較し、影響検討ケースの結果が小さいことから、影響がないことを確認した。

表 3-1 管軸方向の曲げモーメント及びせん断力の比較

発生断面力	設工認地盤*	影響検討ケース
曲げモーメント (kN・m)	10500	7290
せん断力 (kN)	2190	924

注記* : VI-2-2-別添 1-2-6 「サブドレンシャフトの耐震性についての計算書」より抜粋

表 3-2 サブドレンピット壁のせん断ひずみの比較

発生断面力	設工認地盤*	影響検討ケース
せん断ひずみ	0.0198×10^{-3}	0.0168×10^{-3}

注記* : VI-2-2-別添 1-2-6 「サブドレンシャフトの耐震性についての計算書」より抜粋

表 3-3 サブドレンシャフト及びサブドレンピット壁に作用する地震時土圧の比較

部位	地震時土圧 (kN/m ²)	
	設工認地盤*	影響検討ケース
サブドレンシャフト (横断方向)	667	271
サブドレンピット 壁	258	257

注記* : VI-2-2-別添 1-2-6 「サブドレンシャフトの耐震性についての計算書」及び VI-2-2-別添 1-2-7 「サブドレンピットの耐震性についての計算書」にて算出した値

表 3-4 サブドレンピットスラブの曲げモーメント及びせん断力の比較

部位		設工認地盤*	影響検討ケース
曲げ モーメント (kN・m/m)	上部スラブ	495	445
	底部スラブ	121	117
せん断力 (kN/m)	上部スラブ	1070	972
	底部スラブ	789	764

注記* : VI-2-2-別添 1-2-7 「サブドレンピットの耐震性についての計算書」より抜粋

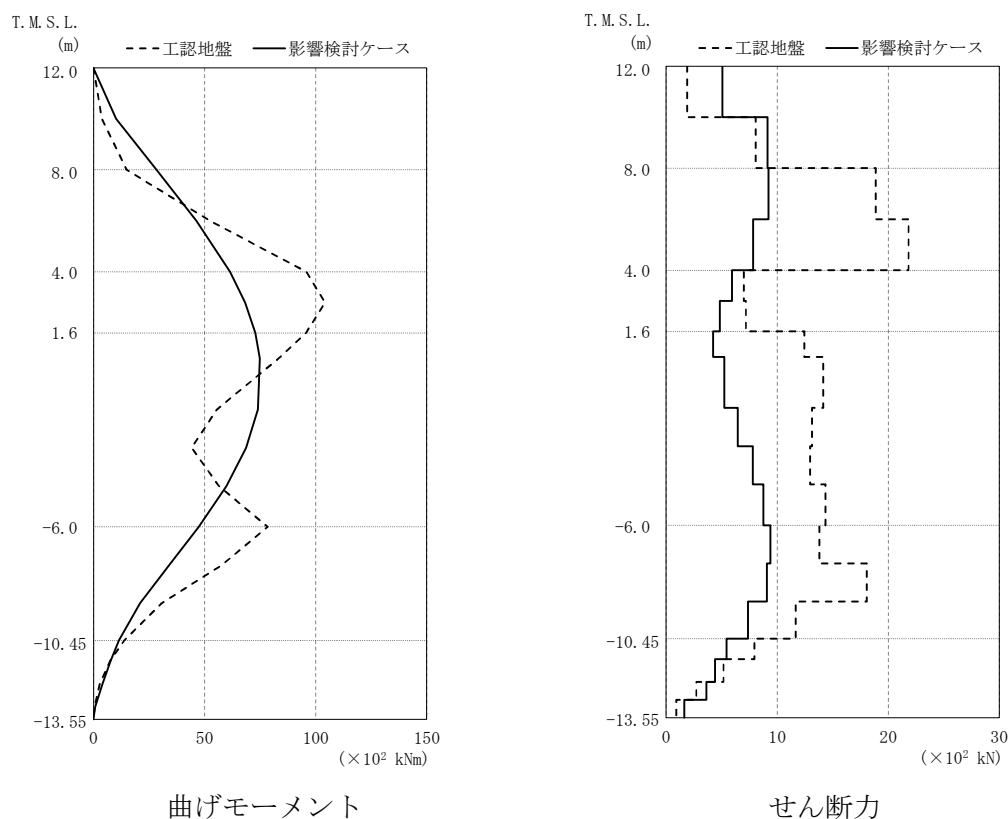


図 3-1 管軸方向の曲げモーメント及びせん断力分布